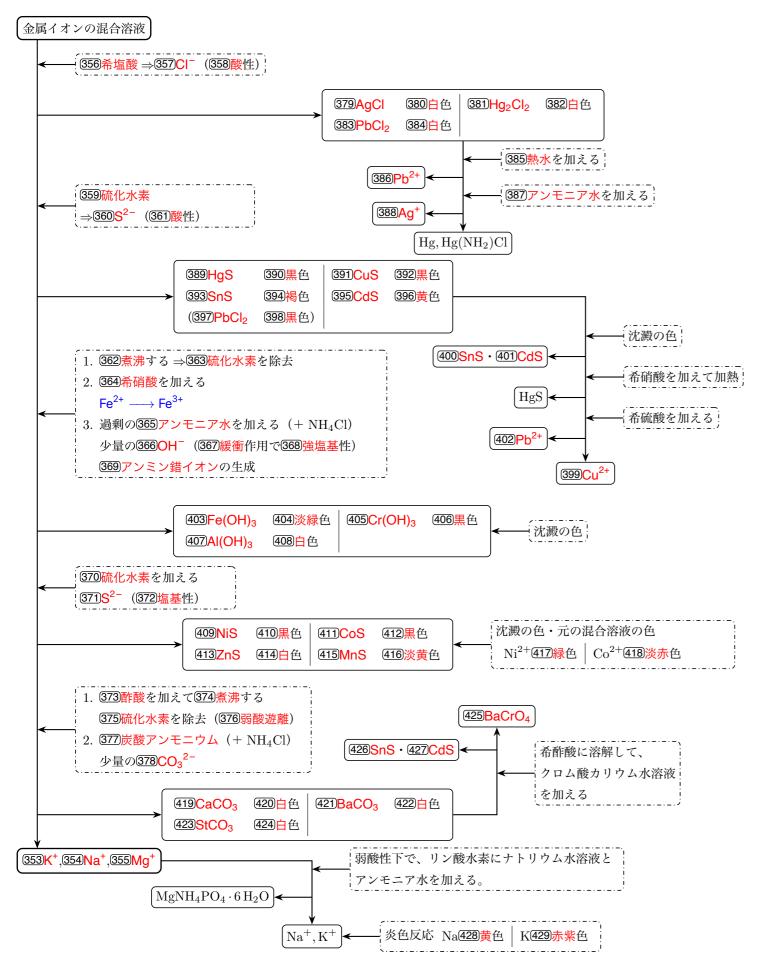
E 金属イオンの系統分離

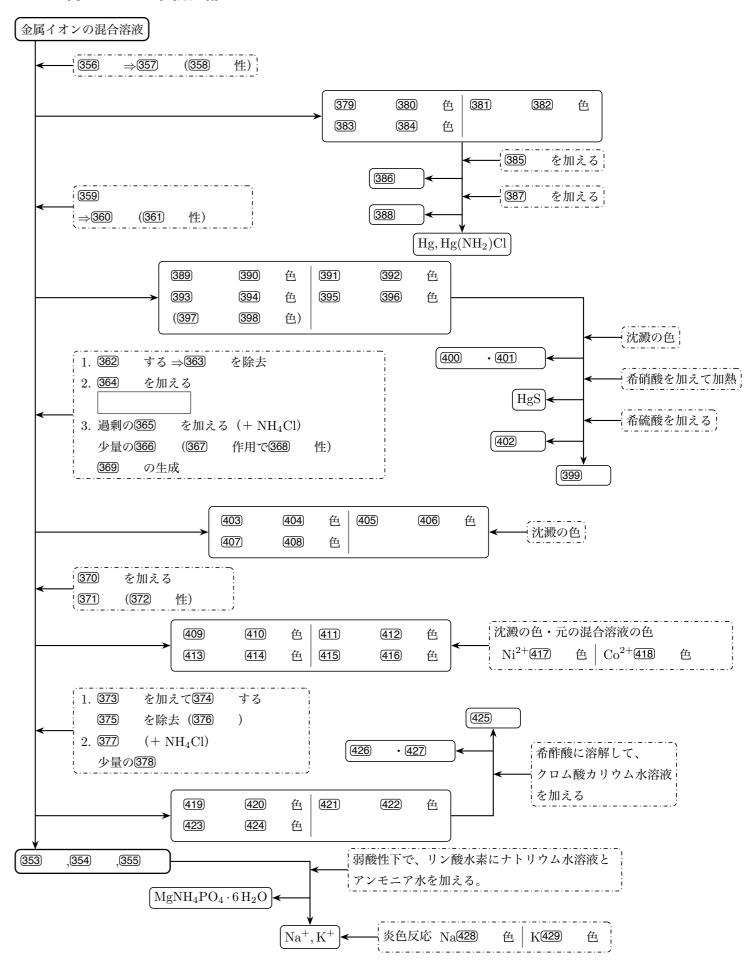


無機化学

目次			6.4 6.5 6.6	一酸化窒素	13
第Ⅰ部	非金属元素	3	7 7.1	リン リン	14
1	水素	3	7.2	十酸化四リン	
1.1	性質	3	7.3	リン酸	14
1.2	同位体	3			
1.3	製法	3	8	炭素	15
1.4	反応	3	8.1	炭素	
2	貴ガス	3	8.2 8.3	一酸化炭素	
2.1	_見 ガス 性質	ა 3	0.5	一敀心外系・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10
2.1	生成	3	9	ケイ素	16
2.3	へ リウム	3	9.1	ケイ素	16
2.4	ネオン	3	9.2	二酸化ケイ素	17
2.5	アルゴン	3			
2.0	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	0	 第Ⅱ部	3 典型金属	19
3	ハロゲン	4			
3.1	単体	4	10	アルカリ金属	19
3.2	ハロゲン化水素	5	10.1	単体	
3.3	ハロゲン化銀	6	10.2	水酸化ナトリウム(苛性ソーダ)	
3.4	次亜塩素酸塩	6	10.3	炭酸ナトリウム・炭酸水素ナトリウム	20
3.5	塩素酸カリウム	6	11	2族元素	22
4	酸素	7	11.1	単体	
4.1	酸素原子	7	11.2	酸化カルシウム(生石灰)	22
4.2	酸素	7	11.3	水酸化カルシウム(消石灰)	23
4.3	オゾン	7	11.4	炭酸カルシウム(石灰石)	23
4.4	酸化物	8	11.5	塩化マグネシウム・塩化カルシウム	23
4.5	水	8	11.6	硫酸カルシウム	24
_	T-11		11.7	硫酸バリウム	24
5	硫黄	9	10	10 #==	0.4
5.1	硫黄	9	12	12 族元素	24
5.2	硫化水素		12.1 12.2	単体	
5.3	二酸化硫黄(亜硫酸ガス)			塩化水銀(I)・塩化水銀(II)	
5.4 5.5	硫酸		12.3	温记小蚁(1)。温记小蚁(11)	20
5.6	重金属の硫化物		13	アルミニウム	25
5.0	里亚属ツ州山切 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	12	13.1	アルミニウム	25
6	窒素	12	13.2	酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム	27
6.1	窒素	12	13.3	ミョウバン・焼きミョウバン	27
6.2	アンモニア	12	14	¬ ¬` . \$\\	20
6.3	一酸化二窒素(笑気ガス)..........	12	14	スズ・鉛 単体	28
			14.1	半 (4)	28

14.2 14.3	塩化スズ (II)	
14.4	鉛の難溶性化合物	29
第Ⅲ部	图 遷移金属	30
15	鉄・コバルト・ニッケル	30
15.1	鉄	30
15.2	硫酸鉄(II)7水和物	31
15.3	塩化鉄(Ⅲ)6水和物	32
15.4	鉄イオンの反応	32
15.5	塩化コバルト (II)	
15.6	硫酸ニッケル(Ⅱ)	32
16	銅	32
16.1	銅	32
16.2	硫酸銅(II)5 水和物	33
16.3	銅(Ⅱ)イオンの反応	34
16.4	銅の合金	34
17	銀	34
17.1	銀	34
17.2	銀 (I) イオンの反応	35
17.3	難溶性化合物の溶解性	35
18	クロム・マンガン	36
18.1	単体	36
18.2	クロム酸カリウム・二クロム酸カリウム	36
18.3	過マンガン酸カリウム	36
18.4	マンガンの安定な酸化数	37
第IV部	APPENDIX	38
Α	気体の乾燥剤	38
В	水の硬度	38
С	金属イオンの難容性化合物	39
D	錯イオンの命名法	40
E	金属イオンの系統分離	41

E 金属イオンの系統分離



41/41

Cl ⁻	$\mathrm{SO_4}^{2-}$	$\mathrm{H_2S}$	$_{\mathrm{H_2S}}$	OH-	OH-	NH_3
		酸性	中・塩基性	NH3	過剰	過剰
313 白色	314—色	315黒色	316黒色	317褐色	318褐色	319無色

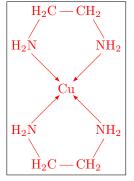
D 錯イオンの命名法

(主に遷移)金属イオンに対して、320非共有電子対を持つ321分子や3221イオンが3231配位結合

「配位子の数(数詞)配位子 金属(価数)酸(陰イオンの場合)イオン」

金属イ	イオン	Ag ⁺	Cı	u ⁺	Cu^{2+}	Zn^{2+}		Fe ²⁺	Fe ³⁺	Co ³⁺	Ni ²⁻	+ Cı	r ³⁺	Al ³⁺	
配位	拉数	(324) <mark>2</mark>			<u>325</u> 4	<u>325</u> 4								
		327	直線	系	328正方形	329正四亩	体形			330 <u>IF</u>	八面体	形			
数	1		2		3	4		5		6	7	7		8	
数詞	331) T	- J	332	iジ 333トリ		334テトラ	33	5ペンタ	(33)	のヘキサ	337ヘプタ		(33	8オクタ]
			339 <u>L</u>	ごス	340トリス	ζ									
配位于	<u>-</u>	NH_3	;		CN^-	H ₂ O		OH^-		Cl-	-	H_2N	- Cl	H ₂ CH ₂ –	NH ₂
名称	341	リアン	ミン	342	2シアニド	343アクア	344	ヒドロキ	シド	345 ク □	リリド	346	エチ	レンジア	ミン

エチレンジアミン · · · 1 分子あたり 2 か所で347配位結合する (2 座配位子) (348キレート錯体)



- [Zn(OH)₄]²⁻ 349テトラヒドロキシド亜鉛(Ⅱ)酸イオン
- [Zn(NH₃)₄]²⁺
 350テトラアンミン亜鉛(II) イオン
- [Ag(S₂O₃)₂]³⁻ 351)ビス(チオスルファト)銀(Ⅰ)イオン
- [Cu(H₂NCH₂CH₂NH₂)]²⁺ 352ビス(エチレンジアミン)銅(Ⅱ)イオン

第一部

非金属元素

1 水素

1.1 性質

- ① 色② 臭の③
- 最も4
- 水に溶け⑤

1.2 同位体

 1 H 99% 以上 2 H (⑥)0.015% 3 H (⑦) 微量

1.3 製法

- ナフサの電気分解 工業的製法
- ・ 8 に 9 を吹き付ける 工業的製法・ 10 (11)の電気分解
- (12) が13 金属と希薄強酸
- \P Fe + 2 HCl \longrightarrow FeCl₂ + H₂ \uparrow \P Zn + 2 HCl \longrightarrow ZnCl₂ + H₂ \uparrow
- 水素化ナトリウムと水

1.4 反応

- 水素と酸素 (爆鳴気の燃焼)
- 加熱した酸化銅(Ⅱ)と水素

2 貴ガス

14 , 15 , 16 , 17 , Xe, Rn

2.1 性質

- 18 色19 臭
- 第 18 族元素であり、電子配置がオクテットを満たすため反応性が低い
- イオン化エネルギーが極めて大きい
- 電子親和力が②
- 電気陰性度が21

2.2 生成

⁴⁰K の電子捕獲

2.3 ヘリウム

化学式:He 浮揚ガス

2.4 ネオン

化学式:Ne ネオンサイン

2.5 アルゴン

化学式:Ar N_2 , O_2 に次いで 3 番目に空気中での存在量が多い (約 1%)。

2 貴ガス D 錯イオンの命名法

第Ⅰ部

非金属元素

1 水素

1.1 性質

- ①無色②無臭の③気体
- 最も④軽い
- 水に溶け⑤にくい

1.2 同位体

¹H 99% 以上 ²H (**⑤D**)0.015% ³H (**⑦T**) 微量

1.3 製法

- ナフサの電気分解 工業的製法
- ®赤熱したコークスに⑨水蒸気を吹き付ける 工業的製法 C + H₂O →→ H₂ + CO
- ①水 (①水酸化ナトリウム水溶液) の電気分解
 2H₂O → 2H₂ + O₂
- ①2イオン化傾向が①H₂ より大きい金属と希薄強酸
 例 Fe + 2 HCl → FeCl₂ + H₂↑
- 水素化ナトリウムと水 $NaH + H_2O \longrightarrow NaOH + H_2$

1.4 反応

- 水素と酸素 (爆鳴気の燃焼)
- $2H_2 + O_2 \longrightarrow H_2O$
- 加熱した酸化銅(II)と水素
 CuO + H₂ → Cu + H₂O

2 貴ガス

14He, 15Ne, 16Ar, 17Kr, Xe, Rn

2.1 性質

- 18無色19無臭
- 第 18 族元素であり、電子配置がオクテットを満たすため反応性が低い
- イオン化エネルギーが極めて大きい
- 電子親和力が20極めて小さい
- 電気陰性度が20定義されない

2.2 生成

⁴⁰K の電子捕獲

 $^{40}\text{K} + \text{e}^- \longrightarrow ^{40}\text{Ar}$

2.3 ヘリウム

化学式:He 浮揚ガス

2.4 ネオン

化学式:Ne ネオンサイン

2.5 アルゴン

化学式: $Ar N_2$, O_2 に次いで 3 番目に空気中での存在量が多い (約 1%)。

	Cl	_	SO_4	2-	H_2	S	H_2	S	ОН	-	ОН	[-	NH	[3
					酸性	生	中・塩	基性	NH	[3	過剩	削	過剩	钊
	313	色	314	色	315	色	316	色	317	色	318	色	319	色

D 錯イオンの命名法

(主に遷移) 金属イオンに対して、320 を持つ321 や322 が323 結合

「配位子の数(数詞)配位子 金属(価数)酸(陰イオンの場合)イオン」

金属イ	゚オン	Ag ⁺	Cu ⁺	Cu ²⁺	Zn^{2}	F	Fe ²⁺	Fe ³⁺	C	Co ³⁺	Ni ²⁻	+ Cr ³	3+	Al^{3+}
配位	L位数 <u>324</u>		32	325			326							
	327 系 328 形 329 形 330 形													
数	1		2	3	4		5	6			7	8		
数詞	331		332	333	334	33	35	336		337		338		
			339	340										
配位于	z N	$ m NH_3$	CN-	H ₂ O	OH-		Cl^-	H ₂ N	V – ($\mathrm{CH_{2}C}$	$^{\circ}\mathrm{H}_{2}$ –	NH_2		
名称	341	D	342	343	(344)		345			346				

エチレンジアミン … 1 分子あたり 2 か所で347 結合する (2 座配位子) (348 錯体)



- $[Zn(NH_3)_4]^{2+}$ 350
- $[Ag(S_2O_3)_2]^{3-}$
- [Cu(H₂NCH₂CH₂NH₂)]²⁺

C 金属イオンの難容性化合物

	Cl ⁻	$\mathrm{SO_4}^{2-}$	$_{ m H_2S}$	$_{ m H_2S}$	OH-	$\mathrm{OH^-}$	NH ₃
		_	酸性	中・塩基性	NH3	過剰	過剰
K ⁺	26—	27—	28_	29_	30—	31_	32_
	33-色	34—色	35—色	36—色	37—色	38—色	39—色
Ba ²⁺	40_	41BaSO ₄	42—	43_	44)—	45—	46—
	47-色	48白色	49—色	50—色	51一色	52—色	53—色
Sr^{2+}	54—	55SrSO ₄	56—	57 —	58—	59—	60—
	61—色	62白色	63-色	64—色	65—色	66—色	67—色
Ca ²⁺	68—	69CaSO ₄	70—	(71) _	72Ca(OH) ₂	73Ca(OH) ₂	74Ca(OH) ₂
	75—色	76白色	77-色	78—色	79白色	80白色	81白色
Na ⁺	82—	83—	84—	85—	86—	87_	88_
	89—色	90-色	91—色	92—色	93—色	94—色	95—色
Mg^{2+}	96—	97)—	98—	99—	100Mg(OH) ₂	101Mg(OH) ₂	102—
	103-色	104—色	105—色	106—色	107 白色	108白色	109—色
Al^{3+}	110—	111)—	112—	113AI(OH) ₃	114AI(OH) ₃	115[Al(OH) ₄]	116AI(OH) ₃
	117—色	118—色	119—色	120白色	121 白色	122白色	123白色
Mn^{2+}	124—	125—	126—	(127)MnS	128Mn(OH) ₂	129Mn(OH) ₂	130Mn(OH) ₂
	131—色	132—色	133—色	134)淡桃色	135 白色	136 白色	137 白色
Zn^{2+}	138—	139—	140—	(141) <mark>ZnS</mark>	(142)Zn(OH) ₂	143[Zn(OH) ₄] ²⁻	144[Zn(NH ₃) ₄] ²⁺
	145—色	146—色	147—色	148白色	149 白色	(150無色	(151)無色
Cr^{3+}	152—	153—	154—	(1 <u>5</u> 5)—	156Cr(OH) ₃	157[Cr(OH) ₄]	158Cr(OH) ₃
	159—色	160—色	161)—色	162—色	163灰緑色	(164)緑色	165灰緑色
Fe ²⁺	166—	<u>167</u> —	168—	169FeS	170Fe(OH) ₂	171Fe(OH) ₂	172Fe(OH) ₂
	173—色	174—色	175—色	176黒色	177)緑白色	178緑白色	179緑白色
Fe ³⁺	180—	(181)—	182Fe ²⁺	183FeS	184Fe(OH) ₃	185Fe(OH) ₃	186Fe(OH) ₃
	187—色	188—色	189淡緑色	190黒色	191)赤褐色	192)赤褐色	193)赤褐色
Cd^{2+}	<u> 194</u>	<u>195</u> —	196CdS	197)CdS	198Cd(OH) ₂	199Cd(OH) ₂	200[Cd(NH ₃) ₄] ²⁻
	201—色	202—色	203黄色	204黄色	205 白色	206 白色	207無色
Co ²⁺	208—	209—	210CoS	211Co(OH) ₂	212Co(OH) ₂	213Co(OH) ₂	214Co(OH) ₂
	215—色	216—色	217 黒色	218青色	219青色	220青色	221青色
Ni ²⁺	222—	223—	224NiS	225Ni(OH) ₂	226Ni(OH) ₂	227Ni(OH) ₂	228[Ni(NH ₃) ₆] ²⁺
	229—色	230—色	231黒色	232緑白色	233緑白色	234緑白色	235青紫色
Sn ²⁺	236—	237)—	238 <mark>SnS</mark>	239 <mark>SnS</mark>	240Sn(OH) ₂	241[Sn(OH) ₄] ²⁻	242Sn(OH) ₂
2.	243—色	244—色	245褐色	246褐色	247白色	248白色	249白色
Pb ²⁺	250PbCI	251)PbSO ₄	252PbS	253PbS	254Pb(OH) ₂	255[Pb(OH) ₄] ²⁻	256Pb(OH) ₂
2.1	257 白色	258白色	259黒色	260 黒色	261 白色	262 無色	263 白色
Cu ²⁺	264)—	265—	266CuS	267 CuS	268Cu(OH) ₂	269Cu(OH) ₂	270[Cu(NH ₃) ₄] ²⁺
0.1	271—色	272—色	273 白色	274 白色	275青白色	276青白色	277深青色
Hg^{2+}	278—	279—	280HgS	281HgS	282HgO	283HgO	284HgO
0.1	285—色	286—色	287黒色	288黒色	289黄色	290黄色	291黄色
$\mathrm{Hg_2}^{2+}$	292Hg ₂ Cl ₂	293—	294)HgS	295HgS	296HgO	297HgO	298HgO
. 1	299白色	300-色	301黒色	302黒色	303黄色	304黄色	305黄色
Ag ⁺	306AgCI	307—	308Ag ₂ S	309Ag ₂ S	310Ag ₂ O	311)Ag ₂ O	312[Ag(NH ₃) ₂] ⁺

3 ハロゲン

3.1 単体

3.1.1 性質

化学式	F_2	Cl_2	Br_2	I_2
分子量	小 -			大
分子間力	弱 -			
反応性	強 =			弱
沸点・融点	低 -			
常温での状態	22	23	24	25
色	26 色	27 色	28 色	29 色
特徴	30 臭	31 臭	揮発性	32 性
H ₂ との反応	33 でも	34 でも35 で	36 して	高温で平衡状態
112 2 07 12 10	爆発的に反応	爆発的に反応	37 により反応	38 して39 により一部反応
水との反応	水を酸化して酸素と	41)	42	43
小との反応	40 反応	41)	(42)	44)
用途	保存が困難	45 による	C=C ₺	47) 反応で
111/5	Kr や Xe と反応	46 作用	C≡C の検出	48 色

3.1.2 製法

 フッ化水素ナトリウム KHF₂ のフッ化水素 HF 溶液の 電気分解 工業的製法

 $KHF_2 \longrightarrow KF + HF$

49 の電気分解 塩素 工業的製法

• 50 に51 を加えて加熱 **塩素**

• 52 と53 塩素

• 54 と55 塩素

• 臭化マグネシウムと塩素 臭素 $MgBr_2 + Cl_2 \longrightarrow MgCl_2 + Br_2$

3.1.3 反応

• フッ素と水素

• 塩素と水素

臭素と水素

ヨウ素とオ	く素

フ	w	素	上	7	ĺ

•	塩素と水

	自妻と水
•	大ポし小

Z,R C A

• ヨウ素の固体がヨウ化物イオン存在下で三ヨウ化物イオンを形成して溶解する反応

C 金属イオンの難容性化合物

3 ハロゲン

3.1 単体

3.1.1 性質

化学式	F ₂ Cl ₂		Br_2	I_2
分子量	小 —			大
分子間力	弱 —			
反応性	強二			
沸点・融点	低 —			
常温での状態	22気体	23気体	24液体	25固体
色	26淡黄色	27黄緑色	28赤褐色	29黒紫色
特徴	30特異臭	31刺激臭	揮発性	32昇華性
H ₂ との反応	33冷暗所でも	34常温でも35光で	<u>36加熱</u> して	高温で平衡状態
	爆発的に反応	爆発的に反応	37 <mark>触媒</mark> により反応	38加熱して39触媒により一部反応
水との反応	水を酸化して酸素と	41一部とけて反応	42一部とけて反応	43反応しない
/	40激しく反応		(型) 即CV) CXIII	44Klaq には可溶
用途	保存が困難	45℃IO ⁻ による	C=C ₺	47ヨウ素デンプン反応で
用您	Kr や Xe と反応	46殺菌・漂白作用	C≡C の検出	48青紫色

3.1.2 製法

フッ化水素ナトリウム KHF₂ のフッ化水素 HF 溶液の電気分解 工業的製法

 $KHF_2 \longrightarrow KF + HF$

- 49塩化ナトリウム水溶液の電気分解 塩素 工業的製法
 2 NaCl + 2 H₂O → Cl₂ + H₂ + 2 NaOH
- ⑤酸化マンガン (IV) に⑤ 濃塩酸を加えて加熱 塩素 MnO₂ + 4 HCI → MnCl₂ + Cl₂↑ + 2 H₂O
- 52高度さらし粉と53塩酸 塩素

 $Ca(CIO)_2 \cdot 2 \, H_2O + 4 \, HCI \longrightarrow CaCl_2 + 2 \, Cl_2 \, \uparrow \, + 4 \, H_2O$

- 54さらし粉と55塩酸 塩素
- $\text{CaCl}(\text{ClO}) \cdot \text{H}_2\text{O} + 2\,\text{HCl} \longrightarrow \text{CaCl}_2 + \text{Cl}_2 \uparrow + 2\,\text{H}_2\text{O}$
- 臭化マグネシウムと塩素 臭素
- $\mathrm{MgBr_2} + \mathrm{Cl_2} \longrightarrow \mathrm{MgCl_2} + \mathrm{Br_2}$ ヨウ化カリウムと塩素 **ヨウ素**
- $2 \operatorname{KI} + \operatorname{Cl}_2 \longrightarrow 2 \operatorname{KCl} + \operatorname{I}_2$

3.1.3 反応

- フッ素と水素
 H₂ + F₂ 常温で爆発的に反応
 2 HF
- ・ 塩素と水素 $H_2 + Cl_2 \xrightarrow{\mathcal{H}^{e_3} \subset S \setminus \mathbb{R}^{2n}} 2 \, HCl$
- ・ 臭素と水素 $H_2 + Br_2 \xrightarrow{\bar{\alpha} \exists a \bar{\alpha} \bar{\nu} \bar{\nu} \bar{\nu} \bar{\nu}} 2 \, HBr$

ヨウ素と水素

H₂ + I₂ 高温で平衡 2 HI

フッ素と水

 $2F_2 + 2H_2O \longrightarrow 4HF + O_2$

塩素と水

 $Cl_2 + H_2O \Longrightarrow HCI + HCIO$

臭素と水

 $Br_2 + H_2O \Longrightarrow HBr + HBrO$

ヨウ素の固体がヨウ化物イオン存在下で三ヨウ化物イオンを形成して溶解する反応

 $l_2 + l^- \longrightarrow l_3^-$

C 金属イオンの難容性化合物

3 ハロゲン

	Cl	-	SO_4	2-	H_2	S	H_2	S	ОН	-	ОН	-	NH	-3
					酸性	ŧ	中・塩	基性	NH	3	過剰	ij	過乗	ij
K ⁺	26		27		28		29		30		31		32	
	33	色	34	色	35	色	36	色	37)	色	38	色	39	色
Ba ²⁺	40		41)		42		43		44		45		46	
	47	色	48	色	49	色	50	色	<u>51</u>	色	52	色	53	色
Sr ²⁺	54		55		56		57		58		59		60	
	61	色	62	色	63	色	64	色	65	色	66	色	67)	色
Ca ²⁺	68		69		70		71		72		73		74	
	75	色	76	色	77	色	78	色	79	色	80	色	81)	色
Na ⁺	82		83		84		85		86		87		88	
	89	色	90	色	91)	色	92	色	93	色	94	色	95	色
Mg^{2+}	96		97		98		99		100		101		102	
	103	色	104	色	105	色	106	色	107	色	108	色	109	色
Al ³⁺	110		111		112		113		114		115		116	
	117	色	118	色	119	色	120	色	(121)	色	122	色	123	色
Mn ²⁺	124		125		126		127		128		129		130	
	131	色	132	色	133	色	134	色	135	色	136	色	137	色
Zn^{2+}	138		(139)		(140)		141		142		143		144	
	145	色	146	色	147	色	148	色	149	色	150	色	(151)	色
Cr ³⁺	152		153		154		<u>155</u>		156		(157)		158	
	159	色	160	色	161	色	162	色	163	色	164	色	165	色
Fe ²⁺	166		167		168		169		170		171		172	
	173	色	174	色	175	色	176	色	177	色	178	色	179	色
Fe ³⁺	180		181		182		183		184		185		186	
	187	色	188	色	189	色	190	色	191	色	192	色	193	色
Cd^{2+}	194		195		196		197		198		199		200	
	201)	色	202	色	203	色	204	色	205	色	206	色	207	色
Co ²⁺	208		209		210		211		212		213		214	
	215	色	216	色	217	色	218	色	219	色	220	色	221	色
Ni ²⁺	222		223		224		225		226		227		228	
	229	色	230	色	231	色	232	色	233	色	234	色	235	色
Sn ²⁺	236		237)		238		239		240		241		242	
	243	色	244	色	245	色	246	色	247)	色	248	色	249	色
Pb^{2+}	250		251		252		253		254		255		256	
	257	色	258	色	259	色	260	色	261	色	262	色	263	色
Cu ²⁺	264		265		266		267		268		269		270	
2.	271)	色	272	色	273	色	274	色	275	色	276	色	277)	色
Hg ²⁺	278		279		280		281		282		283		284	
	285	色	286	色	287	色	288	色	289	色	290	色	291	色
$\mathrm{Hg_2}^{2+}$	292		293		294		295		296		297		298	
	299	色	300	色	301	色	302	色	303	色	304	色	305	色
Ag ⁺	306		307		308		309		310		311		312	

第IV部

APPENDIX

A 気体の乾燥剤

固体の乾燥剤は①U字管につめて、液体の乾燥剤は②洗気瓶に入れて使用。

性質	乾燥剤	化学式	対象	対象外 (不適)		
酸性	③十酸化四リン	4P ₄ O ₁₀	酸性・中性	塩基性の気体(⑤NH ₃)		
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	6濃硫酸	⑦H₂SO₄	酸性・中性	+8H ₂ S (9還元剤)		
中性	10塩化カルシウム	11CaCl ₂	ほとんど全て	12NH ₃		
中注	13シリカゲル	14SiO ₂ · <i>n</i> H ₂ O	はこんと主く	特になし		
塩基性	15酸化カルシウム	16CaO	中性・塩基性	酸性の気体		
温 左 性	①フソーダ石灰	18CaO と NaOH	甲性•塩基性	19Cl ₂ ,29HCl,21H ₂ S,22SO ₂ ,23CO ₂ ,24NO ₂		

B 水の硬度

硬水に含まれる陰イオンが

水の中の重荷 $\mathrm{Ca^{2+}}$ と $\mathrm{Mg^{2+}}$ を $\mathrm{CaCO_3}$ として換算した時の濃度 $[\mathrm{mg/L}]$

/ 例炭酸水素カルシウム水溶液

 $Ca(HCO_3)_2 \longrightarrow CaCO_3 \downarrow + H_2O + CO_2$

例炭酸水素マグネシウム水溶液

煮沸する25炭酸塩が沈澱して軟化可能(一時硬水)

38/41

Mg(HCO₃)₂ \longrightarrow MgCO₃ \downarrow + H₂O + CO₂

煮沸しても軟化不可能 (永久硬水)

3.1.4 塩素発生実験の装置

 $\mathrm{MnO_2} + 4\,\mathrm{HCl} \xrightarrow{\Delta} \mathrm{MnCl_2} + \mathrm{Cl_2} \uparrow + 2\,\mathrm{H_2O}$

 Cl_2,HCl,H_2O

↓56 に通す (HCl の除去)

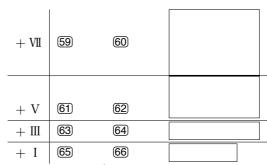
 Cl_2,H_2O

↓57 に通す (H₂O の除去)

 Cl_2

3.1.5 塩素のオキソ酸

オキソ酸...58



3.2 ハロゲン化水素

3.2.1 性質

化学式		HF			HCl		H	HBr		HI	
色・臭い				67 色8			臭				
沸点		20°C			−85°C		-(−67°C		−35°C	
水との反応	i				69						
水溶液		70			71		72	72		73	
(強弱)			74	«	<u>75</u>	<	76	<	77		
用途		78	と反応	(79	9	の検出	半道	体加工	イン	′ジウムスズ	
/11/25		⇒ポリ	エチレン瓶		各種	重工業	TG	rt /JH JL	酸	化物の加工	

3.2.2 製法



3.2.3 反応

• 気体のフッ化水素がガラスを侵食する反応

フッ化水素酸(水溶液)がガラスを侵食する反応

89 による90 の検出

3.2 ハロゲン化水素 3 ハロゲン

3.1.4 塩素発生実験の装置

 $\mathrm{MnO_2} + 4\,\mathrm{HCl} \xrightarrow{\Delta} \mathrm{MnCl_2} + \mathrm{Cl_2} \uparrow + 2\,\mathrm{H_2O}$ $\mathrm{Cl_2},\mathrm{HCl},\mathrm{H_2O}$ \downarrow 56 水 に通す (HCl の除去) $\mathrm{Cl_2},\mathrm{H_2O}$

↓**57濃硫酸**に通す (H₂O の除去)

 Cl_2

3.1.5 塩素のオキソ酸

オキソ酸・・・58酸素を含む酸性物質



3.2 ハロゲン化水素

3.2.1 性質

化学式	HF	HCl	HBr	HI				
色・臭い	67無色圖刺激臭							
沸点	20°C	−85°C	−67°C	−35°C				
水との反応		69よく溶ける						
水溶液	70フッ化水素酸	71塩酸	72臭化水素酸	73ヨウ化水素酸				
(強弱)	74]弱性	嫂 ≪ 75強酸 < 76	3強酸 < 77 <mark>3</mark>	主酸				
用途	78ガラスと反応	79アンモニアの検出	半導体加工	インジウムスズ				
111/02	⇒ ポリエチレン瓶	各種工業	十等件加工	酸化物の加工				

3.2.2 製法

• 80ホタル石に81濃硫酸を加えて加熱 (82弱酸遊離) フッ化水素

 $CaF_2 + H_2SO_4 \longrightarrow CaSO_4 + 2HF \uparrow$

83水素と84塩素 塩化水素 工業的製法

 $H_2 + Cl_2 \longrightarrow 2 HCl \uparrow$

85塩化ナトリウムに86濃硫酸を加えて加熱塩化水素 (87弱酸・88揮発性酸の追い出し)
 NaCl + H₂SO₄ → NaHSO₄ + HCl↑

3.2.3 反応

• 気体のフッ化水素がガラスを侵食する反応

 $SiO_2 + 4HF(g) \longrightarrow SiF_4 \uparrow + 2H_2O$

• フッ化水素酸(水溶液)がガラスを侵食する反応

 $SiO_2 + 6 HF (aq) \longrightarrow H_2 SiF_6 \uparrow + 2 H_2 O$

89塩化水素による900アンモニアの検出

 $HCI + NH_3 \longrightarrow NH_4CI$

第IV部

APPENDIX

A 気体の乾燥剤

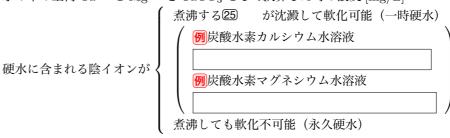
固体の乾燥剤は① につめて、液体の乾燥剤は② に入れて使用。

性質	乾燥剤	化学式	対象	対象外 (不適)						
酸性	3	4	酸性・中性	塩基性の気体(⑤)						
阪江	6	7	酸性・中性	+8 (9)						
中性	10	11)	ほとんど全て	12						
中性	13	14)	はこんと主て	特になし						
冶甘州	15)	16	中性・塩基性	酸性の気体						
塩基性	17)	18	中任・塩基性	19 ,20 ,21 ,22 ,23 ,24						

B 水の硬度

B 水の硬度

水の中の重荷 $\mathrm{Ca^{2+}}$ と $\mathrm{Mg^{2+}}$ を $\mathrm{CaCO_3}$ として換算した時の濃度 $[\mathrm{mg/L}]$



18.4 マンガンの安定な酸化数 18 クロム・マンガン

18.3.1 性質

- 937黒紫色の固体
- 938酸化剤として反応

```
939硫酸酸性 MnO_4^- + 8 H^+ + 5 e^- \longrightarrow Mn^{2+} + 4 H_2 O
中·塩基性 MnO_4^- + 2 H_2 O + 3 e^- \longrightarrow MnO_2 + 4 O H^-
```

18.3.2 製法

1. 酸化マンガン (IV) と水酸化ナトリウムを混ぜて空気中で加熱

```
2MnO_2 + 4KOH + O_2 \longrightarrow 2K_2MnO_4 + 2H_2O (MnO_2 : 940黒褐色/ K_2MnO_4 : 941緑色)
```

2. (a) 酸性にする

$$3 \text{MnO}_4^{2-} + 4 \text{H}^+ \longrightarrow 2 \text{MnO}_4^- + \text{MnO}_2 + 2 \text{H}_2 \text{O} (\text{MnO}_4^{2-} : 942$$
 緑色 $/ \text{MnO}_4^- : 943$ 赤紫色)

37/41

(b) 電気分解する

18.4 マンガンの安定な酸化数

残留酸素の定量 (ウィンクラー法)

1. マンガン(Ⅲ) イオンを含む水溶液に塩基を加える

$$Mn^{2+} + 2OH^{-} \longrightarrow Mn(OH)_{2} \downarrow$$

2. 水酸化マンガン (II) が水溶液中の溶存酸素と速やかに反応

$$2 \operatorname{Mn}(OH)_2 + O_2 \longrightarrow 2 \operatorname{MnO}(OH)_2$$

3. 希硫酸を加える

$$MnO(OH)_2 + 4H^+ + 2e^- \longrightarrow Mn^{2+} + 3H_2O$$
 (945)酸化剂)

3.3 ハロゲン化銀

3.3 ハロゲン化銀

3.3.1 性質

	化学式	Ag	F	Ag	Cl	Ag	Br	Aş	gI
	固体の色	91	色	92	色	93	色	94	色
ĺ	水との反応	95				96			
	光との反応	97			感光	2性(-	→98)	

3.3.2 製法

•	酸化銀	(I)	にフッイ	化水素酸	を加え	えて蒸	発圧縮
•	ハロゲン	/化水	素イオン	ンを含む	水溶液	夜と99	

•	ハロゲン化水素イオンを	:含む水溶液と9

3.4 次亜塩素酸塩

3.4.1 性質

100 剤として反応(101・102 作用)

3.4.2 製法

• 水酸化ナトリウム水溶液と塩素

•	水酸化カルシウムと塩素	

3.5 塩素酸カリウム

化学式: 103

3.5.1 性質

104 の生成(105) を触媒に加熱)

6/41

3 ハロゲン

3.3 ハロゲン化銀 3 ハロゲン

3.3 ハロゲン化銀

3.3.1 性質

化学式	AgF	AgCl	AgBr	AgI
固体の色	91)黄褐色	92白色	93淡黄色	94黄色
水との反応	95よく溶ける	96	まとんど溶け	ない
光との反応	97感光	感	光性 (→98/4	(g)

3.3.2 製法

• 酸化銀(I)にフッ化水素酸を加えて蒸発圧縮

$$Ag_2O + 2HF \longrightarrow 2AgF + H_2O$$

• ハロゲン化水素イオンを含む水溶液と99硝酸銀水溶液

$$Ag^+ + X^- \longrightarrow AgX \downarrow$$

3.4 次亜塩素酸塩

3.4.1 性質

100酸化剤として反応(101)殺菌・102漂白作用)

$$CIO^- + 2H^+ + 2e^- \longrightarrow CI^- + H_2O$$

3.4.2 製法

• 水酸化ナトリウム水溶液と塩素

$$2 \text{ NaOH} + \text{Cl}_2 \longrightarrow \text{NaCI} + \text{NaCIO} + \text{H}_2\text{O}$$

• 水酸化カルシウムと塩素

$$Ca(OH)_2 + Cl_2 \longrightarrow CaCl(ClO) \cdot H_2O$$

3.5 塩素酸カリウム

化学式: 103KCIO₃

3.5.1 性質

(104)酸素の生成((105)二酸化マンガンを触媒に加熱)

$$2 \text{ KCIO}_3 \xrightarrow{\text{MnO}_2} 2 \text{ KCI} + 3 \text{ O}_2 \uparrow$$

18 クロム・マンガン 18.4 マンガンの安定な酸化数

18.3.1 性質

• 937 色の固体

• 938	剤として	反応
939	酸性	
中•	塩基性	

18.3.2 製法

1.	酸化マンガン	(IV)	と水酸化ナトリウムを混ぜて空気中で加熱	
				_

1. 政化 (7 / 2 / 17 / 17 / 4 / 2 / 18 / 1 / 1 / 4 / 2 / 18 / 18 / 18 / 18 / 18 / 18 / 18	エスパーく加が				
] (MnO ₂ : 940	色/ K ₂	MnO_4 : 941	色)	
2. (a) <u>酸性にする</u>					
	(MnO_4^2)	: 942	色 $/ \operatorname{MnO_4}^-$: 943	色)
(b) 電気分解する					
(944) 極)					

18.4 マンガンの安定な酸化数

残留酸素の定量 (ウィンクラー法)

1.	マンガン (III) イオンを含む水溶液に塩基を加え	こる	
2.		恵やかに反	
3.	希硫酸を加える		
		(945)	剤)

18 クロム・マンガン

化学式: 911 Cr· 912 Mn

18.1 単体

18.1.1 性質

- 913強酸と反応 (914 Cr は 915) 濃硝酸には 916 不動態となり反応しない)
- 空気中で錆び917にくい (918不動態) ⇒919ステンレス鋼 (Fe, Cr, Ni) クロム
 空気中で錆び920やすい マンガン
- 921ニクロム合金 (Fe, Cr, Mn) (電熱線・発熱体)

18.1.2 反応

• クロムと希塩酸

```
Cr + 2HCl \longrightarrow CrCl_2 + H_2 \uparrow (Cr^{2+}: 青色)
```

マンガンと希塩酸

 $Mn + 2 HCl \longrightarrow MnCl_2 + H_2 \uparrow (Mn^{2+} : 922)淡桃色)$

18.2 クロム酸カリウム・二クロム酸カリウム

化学式: 923K2CrO4 · 924K2Cr2O7

18.2.1 性質

• 二つは平衡状態にある

 $9252 \text{ CrO}_4^{2-} + \text{H}^+ \implies 926 \text{ Cr}_2 \text{O}_7^{2-} + \text{OH}^-$

<u>927</u>塩基性・<u>928</u>黄色

929酸性·930赤橙色

• 931酸化剤として反応 ニクロム酸カリウム

 $Cr_2O_7^{2-} + 14H^+ + 6e^- \longrightarrow 2Cr^{3+} + 7H_2O$ (932)硫酸酸性下)

18.2.2 製法

1. クロム(Ⅲ) イオンに少量の水酸化ナトリウム水溶液を加える

```
\operatorname{Cr}^3 + 3\operatorname{OH}^- \longrightarrow \operatorname{Cr}(\operatorname{OH})_3 \downarrow
```

2. さらに水酸化ナトリウム水溶液を加える(過剰の水酸化ナトリウム水溶液を加える)

```
Cr(OH)_3 + OH^- \longrightarrow [Cr(OH)_4]^-
```

3. 過酸化水素水を加えて加熱

 $2[Cr(OH)_4]^- + 3H_2O_2 + 2OH^- \longrightarrow 2CrO_4^{2-} + 8H_2O$

18.2.3 反応

クロム酸イオンと銀イオン

```
CrO<sub>4</sub><sup>2-</sup> + 2 Ag<sup>+</sup> → Ag<sub>2</sub>CrO<sub>4</sub> ↓ (933赤褐色)
```

• クロム酸イオンと銀イオン

```
CrO_4^{2-} + Ba^{2+} \longrightarrow BaCrO_4 \downarrow (934)黄色)
```

• クロム酸イオンと銀イオン

 $CrO_4^{2-} + Ag^{2+} \longrightarrow PbCrO_4$ (935)黄色)

18.3 過マンガン酸カリウム

化学式: 936KMnO₄

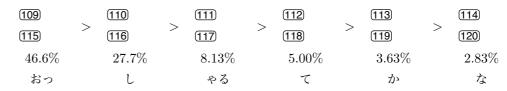
4 酸素

4.1 酸素原子

同106 体:酸素 (O_2) ,107 (O_3)

地球の地殻に108 存在

- 地球の地殻における元素の存在率 -



4.2 酸素

化学式: O_2

4.2.1 性質

- (121) 色(122) 臭の(123)
- 沸点 −183°C

4.2.2 製法

- 124工業的製法
- 125 (126) O(127)
- 128 (129)の分解
- 130 の熱分解

4.2.3 反応

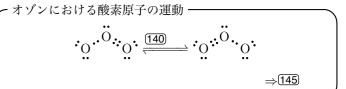
(31) 剤としての反応

4.3 オゾン

化学式: 132

4.3.1 性質

- (133) 臭((134) 臭)を持つ(135) 色の(136) (常温)
- ・ 水に137
- 138 139 作用



4 酸素

4.3.2 製法

酸素中で (146) / 強い (147) を当てる

4.3.3 反応

- 148 剤としての反応
- 湿らせた(149) を(150) 色に変色
- 湿らせた(149) を(150) 色に変色

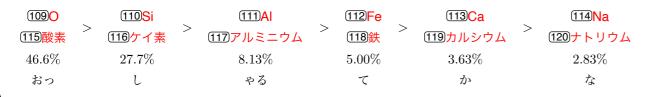
4 酸素

4.1 酸素原子

同106位体:酸素 (O_2) ,107オゾン (O_3)

地球の地殻に108最も多く存在

- 地球の地殻における元素の存在率 -



4.2 酸素

化学式: O_2

4.2.1 性質

- 121無色122無臭の123気体
- 沸点 −183°C

4.2.2 製法

- (124)液体空気の分留 **工業的製法**
- 125水 (126水酸化ナトリウム水溶液) の127電気分解
 2H₂O → 2H₂↑ + O₂↑
- 128過酸化水素水(129オキシドール)の分解 2 H₂O₂ MnO₂ → O₂↑ + 2 H₂O
- ① $\frac{130}{2}$ 塩素酸カリウムの熱分解 $\frac{1}{2}$ $\frac{1}$

4.2.3 反応

131酸化剤としての反応

 $O_2 + 4 H^+ + 4 e^- \longrightarrow 2 H_2 O$

4.3 オゾン

化学式: 13203

4.3.1 性質

- (133)ニンニク臭((134)特異臭)を持つ(135)淡青色の(136)気体(常温)
- 水に(137)少し溶ける
- 138殺菌・139脱臭作用



4.3.2 製法

酸素中で146無声放電/強い147紫外線を当てる $3O_2 \longrightarrow 2O_3$

4.3.3 反応

- (148)酸化剤としての反応
- $O_3 + 2H^+ + 2e^- \longrightarrow O_2 + H_2O$
- 湿らせた(149)ヨウ化カリウムでんぷん紙を(150)青色に変色

$$O_3 + 2 KI + H_2O \longrightarrow I_2 + O_2 + 2 KOH$$

18 クロム・マンガン

化学式: 911 · 912

18.1 単体

4 酸素

18.1.1 性質

- 913 と反応 (914 は 915 には 916 となり 反応しない)
- 空気中で錆び917 (918) ⇒919 (Fe, Cr, Ni) クロム
 空気中で錆び920 マンガン
- 921 合金 (Fe, Cr, Mn) (電熱線・発熱体)

18.1.2 反応

- クロムと希塩酸 (Cr²⁺: 青色)
- マンガンと希塩酸 (Mn²⁺: 922) 色)

18.2 クロム酸カリウム・ニクロム酸カリウム

化学式: 923 · 924

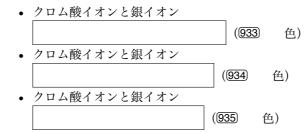
18.2.1 性質

• 二つは平衡状態にある



18.2.2 製法

- クロム(Ⅲ)イオンに少量の水酸化ナトリウム水溶液を加える
 さらに水酸化ナトリウム水溶液を加える(過剰の水酸化ナトリウム水溶液を加える)
 過酸化水素水を加えて加熱
- 18.2.3 反応



18.3 過マンガン酸カリウム

化学式: 936

無機化学

解答編

• 銀と熱濃硫酸

$$2 \text{ Ag} + 2 \text{ H}_2 \text{SO}_4 \longrightarrow \text{Ag}_2 \text{SO}_4 + 2 \text{ H}_2 \text{O} + \text{SO}_2 \uparrow$$

• 銀と硫化水素

$$4 \text{ Ag} + 2 \text{ H}_2 \text{S} + \text{O}_2 \longrightarrow 2 \text{ Ag}_2 \text{S} + 2 \text{H}_2 \text{O}$$

17.2 銀(I)イオンの反応

868 硝酸銀水溶液

	少量の塩基	過剰の NH ₃	HCl	H ₂ S(869 全液性)	K_2CrO_4	
Ag^{2+}	870Ag ₂ O↓	871[Ag(NH ₃) ₂] ⁺	872AgCl↓	873Ag ₂ S↓	874Ag ₂ CrO ₄ ↓	
875無色	876褐色	877 無色	878 白色	879黒色	880赤褐色	

• 銀と少量の塩基

$$2 \text{ Ag}^+ + 2 \text{ OH}^- \longrightarrow \text{Ag}_2 \text{O} \downarrow + \text{H}_2 \text{O}$$

銀と過剰の NH₃

$$Ag_2O + 4NH_3 + H_2O \longrightarrow 2[Ag(NH_3)_2]^+ + 2OH^-$$

• 銀と HCl

$$Ag^+ + Cl^- \longrightarrow AgCl \downarrow$$

• 銀と H₂S

$$2 \operatorname{Ag}^+ + \operatorname{S_2}^- \longrightarrow \operatorname{Ag}_2 \operatorname{S} \downarrow$$

• 銀と K₂CrO₄

$$AgCI + 2NH_3 \longrightarrow [Ag(NH_3)_2]^+ + CI^-$$

17.3 難溶性化合物の溶解性

		HNO_3	NH_3	NaS_2O_3	KCN
$ m Ag_2S\downarrow$	881黒色	882溶ける	883溶けない	884溶けない	885溶ける
Ag ₂ O↓	886褐色	<u>887</u> 溶ける	888溶ける	889溶ける	890溶ける
AgCl↓	891白色	892)溶けない	893溶ける	894溶ける	895溶ける
AgBr↓	896淡黄色	897)溶けない	898 やや溶ける	899溶ける	900溶ける
AgI↓	901黄色	902溶けない	903溶けない	904溶ける	905溶ける
溶解している物質	906無色	907Ag ⁺ (AgNO ₃)	908[Ag(NH ₃) ₂] ⁺	909[Ag(S ₂ O ₃) ₂] ³⁻	910[Ag(CN) ₂]

4.4 酸化物

	塩基性	上酸化物	両性配	後化物	酸性	酸化物	
元素	(151)	元素	152	元素	153	元素	
水との反応	(154	.)	(155)		(156)	(157)	
中和	158	と反応	(159)	と反応	(160)	と反応	
両性酸化物 …	. (161)	(162)) ,163	(164)) ,[16	5 (166)	

 $\bigcirc O_2 + H_2O \longrightarrow H_2CO_3$

 Θ SO₂ + H₂O \longrightarrow H₂SO₃

4.4.1 反応

酸化銅(Ⅱ)と塩化水素

• 酸化アルミニウムと硫酸

EXTL / / C C WILLY

• 酸化アルミニウムと水酸化ナトリウム水溶液

4.5 水

4.5.1 性質

• 169 分子

• 周りの4つの分子と170 結合

• 異常に171 沸点

• 172 結晶構造 (密度:固体173 液体)

• 特異な174

4.5.2 反応

• 酸化カルシウムと水

二酸化窒素と水

・敗化至糸と小

H O H H O H

4 酸素

無機化学 無機化学 無機化学 無機化学 8/41 空欄編

^{*&}lt;sup>1</sup> 覚え方: ああすんなり

4.4 酸化物 4 酸素

4.4 酸化物

	塩基性酸化物	両性酸化物	酸性酸化物
元素	151陽性の大きい金属元素	152陽性の小さい金属元素	153非金属元素
水との反応	154)塩基性	(155)ほとんど溶けない	(156)酸性 ((157)オキソ酸)
中和	①58 <mark>酸</mark> と反応	159酸・塩基と反応	160 <mark>塩基</mark> と反応

両性酸化物 · · · (161)アルミニウム (162AI) ,163亜鉛 (164Zn) ,165スズ (166Sn) ,167鉛 (168Pb)*1

例 $CO_2 + H_2O \longrightarrow H_2CO_3$

 $\bigcirc SO_2 + H_2O \longrightarrow H_2SO_3$

4.4.1 反応

酸化銅(Ⅱ)と塩化水素

 $CuO + 2HCI \longrightarrow CuCl_2 + H_2O$

• 酸化アルミニウムと硫酸

 $Al_2O_3 + 3 H_2SO_4 \longrightarrow Al_2(SO_4)_3 + 3 H_2O$

• 酸化アルミニウムと水酸化ナトリウム水溶液

 $Al_2O_3 + 2 NaOH + 3 H_2O \longrightarrow 2 Na[Al(OH)_4]$

4.5 水

4.5.1 性質

- 169極性分子
- 周りの4つの分子と170水素結合
- 異常に171高い沸点
- 172隙間の多い結晶構造(密度:固体173<液体)
- 特異な174融解曲線

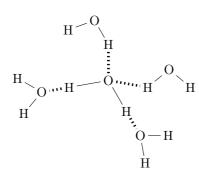
4.5.2 反応

• 酸化カルシウムと水

 $CaO + H_2O \longrightarrow Ca(OH)_2$

二酸化窒素と水

 $3 \text{ NO}_2 + \text{H}_2\text{O} \longrightarrow 2 \text{ HNO}_3 + \text{NO}$



17.2 銀(I)イオンの反応 17 銀

•	銀と熱濃硫酸
•	銀と硫化水素

17.2 銀(I)イオンの反応

868 水溶液

		少量の	塩基	過剰の	NH_3	HC	1	H ₂ S (869)	性)	K ₂ Cr	O_4	
Ag^{2+}		870		871)		872		873		874		
875	色	876	色	877	色	878	色	879	色	880	色	

銀と少量の塩基

• 銀と過剰の NH₃

• 銀と HCl

• 銀と H₂S

• 銀と K₂CrO₄

17.3 難溶性化合物の溶解性

				HNO_3	NH_3	NaS_2O_3	KCN
Ag_2	S↓	881	色	882	883	884	885
Ag_2	O↓	886	色	887	888	889	890
AgC	C1↓	891	色	892	893	894	895)
AgE	Br↓	896	色	897	898	899	900
Ag	I	901	色	902	903	904	905)
溶解して	いる物質	906	色	907	908	909	910

無機化学 無機化学 無機化学 第5/41 第6編 無機化学 無機化学 第6編 無機化学 第7/41 第7/4

^{*1} 覚え方:ああすんなり

• 還元性を持つ有機化合物の検出*6 833赤色の酸化銅(I)が生成

16.2.2 製法

銅に834濃硫酸をかけてから835加熱。

16.3 銅(Ⅱ) イオンの反応

	少々の塩基	過剰の NH ₃	濃塩酸	H ₂ S (836全液性)
Cu ²⁺	837Ca(OH) ₂ ↓	838[Ca(NH ₃) ₄] ²⁺ aq	839[CuCl ₄] ²⁻ aq	840CuS↓
841青色	842青白色	843 深青色	844) 黄緑色	845黒色

炎色反応: 846 青緑色

• 加熱すると847分解

• Cu²⁺ は848NH₃ と錯イオンを形成し、849OH⁻ とは形成しない

16.4 銅の合金

850 黄銅(真鍮)	(851) 洋銀 (洋白)	852白銅	853青銅	854ジュラルミン
855 <mark>Zn</mark>	856Zn, Ni	857 <mark>N</mark> i	858 <mark>Sn</mark>	859AI (主成分)
適度な強度と加工性	柔軟で錆びにくい	柔軟で錆びにくい	硬くて錆びにくい	軽くて丈夫
楽器・水道用具	食器・装飾品	五十円玉・五百円玉	像	航空機・車両

17 銀

17.1 銀

17.1.1 性質

• 展性・延性が860大きく、電気・熱伝導性が861最も高い

イオン化傾向が水素より862小さい

863酸化力のある酸(864硝酸・865熱濃硫酸)と反応

• 空気中で酸化しにくいが、866硫化水素とは容易に反応

17.1.2 製法

• 銅の電解精錬の867陽極泥 工業的製法

• 銀の化合物の熱分解・光分解

酸化銀の熱分解

 $2 \text{ Ag}_2 \text{O} \longrightarrow 4 \text{ Ag} + \text{O}_2$

ハロゲン化銀 AgX の感光

 $2 \text{ AgX} \longrightarrow 2 \text{ Ag} + \text{ X}_2$

17.1.3 反応

• 銀と希硝酸

 $3 \text{ Ag} + 4 \text{ HNO}_3 \longrightarrow 3 \text{ AgNO}_3 + 2 \text{ H}_2\text{O} + \text{NO} \uparrow$

• 銀と濃硝酸

 $Ag + 2HNO_3 \longrightarrow AgNO_3 + H_2O + NO_2 \uparrow$

5 硫黄

5.1 硫黄

5.1.1 性質

J							
名称	175	硫黄	176	硫黄	177	硫黄	
化学式	178		179		180		
色	(181)	色	182	色	183	色	
構造	184	結晶	185	結晶	186	固体	
融点	113	°C	119	°C	不定		
構造		S S	S S S		,,,,S S		
CS ₂ との反応	(187)	+ 3t/. Lst	(188)	61146	(189)		

CS₂··· 無色・芳香性・揮発性 ⇒ 190 触媒

5.1.2 反応

• 高温で多くの金属 (Au, Pt を除く) と反応

例Fe

空気中で191 色の炎を上げて燃焼

5.2 硫化水素

化学式: 192

5.2.1 性質

• 193 色194 臭

性 196 197

• (195)

 $K_1 = 9.5 \times 10^{-8} \text{ mol/L}$ $K_2 = 1.3 \times 10^{-14} \text{ mol/L}$

198 剤としての反応

重金属イオン M²⁺ と199
 を生成

5.2.2 製法

硫化鉄(Ⅱ)と希塩酸

• 硫化鉄(II) と希硫酸

5.2.3 反応

• 硫化水素とヨウ素

• 酢酸鉛(II)水溶液と硫化水素(200 の検出)

^{*6} フェーリング液・ベネディクト液

5 硫黄

5.1 硫黄

5.1.1 性質

名称	(175) <mark>斜方</mark> 硫黄	176 単斜硫黄	177 ゴム状硫黄
化学式	178 <mark>S</mark> 8	179S ₈	180S _x
色	181 <mark>黄</mark> 色	182黄色	183黄色
構造	184塊状結晶	185針状結晶	186不定形固体
融点	113°C	119°C	不定
構造	S S		
CS ₂ との反応	(187)溶ける	188溶ける	189溶けない

CS₂··· 無色・芳香性・揮発性 ⇒190無極性触媒

5.1.2 反応

- 高温で多くの金属 (Au, Pt を除く) と反応
- 例 $Fe Fe + S \longrightarrow FeS$
- 空気中で1911青色の炎を上げて燃焼
- $S + O_2 \longrightarrow SO_2$

5.2 硫化水素

化学式: 192H₂S

5.2.1 性質

- 193無色194腐卵臭
- 195 弱酸性

```
\begin{cases} \boxed{196} \text{H}_2 \text{S} & \rightleftharpoons \text{H}^+ + \text{HS}^- & K_1 = 9.5 \times 10^{-8} \text{ mol/L} \\ \boxed{197} \text{HS}^- & \rightleftharpoons \text{H}^+ + \text{S}^{2-} & K_2 = 1.3 \times 10^{-14} \text{ mol/L} \end{cases}
```

 $H_2S \longrightarrow S + 2H^+ + 2e^-$

 重金属イオン M²⁺ と199難容性の塩を生成 M₂⁺ + S²⁻ ⇒ MS↓

5.2.2 製法

- 硫化鉄(Ⅱ)と希塩酸
- FeS + 2 HCl \longrightarrow FeCl₂ + H₂S \uparrow
- 硫化鉄(Ⅱ)と希硫酸

 $FeS + H_2SO_4 \longrightarrow FeSO_4 + H_2S \uparrow$

5.2.3 反応

- 硫化水素とヨウ素
- $H_2S + I_2 \longrightarrow S + 2HI$
- 酢酸鉛(II)水溶液と硫化水素(200H₂Sの検出) (CH₃COO)₂Pb + H₂S → 2 CH₃COOH + PbS↓

• 還元性を持つ有機化合物の検出*6

833 色の酸化銅(I)が生成

16.2.2 製法

銅に834 をかけてから835。

16.3 銅(Ⅱ) イオンの反応

		少々の	塩基	過剰の	NH_3	濃塩	酸	H ₂ S (836)	
Cu ²	+	837		838		839		840		7
841	色	842	色	843	色	844	色	845	色	

- 炎色反応: 846 色
- 加熱すると847
- Cu²⁺ は848 と錯イオンを形成し、849 とは形成しない

16.4 銅の合金

850	(真鍮)	851 (洋白)		852	853	854)		
855		856		857	858	859	(主成分)	
適度な強度	と加工性	柔軟で錯	びにくい	柔軟で錆びにくい	硬くて錆びにくい	軽く	て丈夫	
楽器・水	楽器・水道用具		道用具 食器・装飾品		五十円玉・五百円玉	像	航空機・車両	

17 銀

17.1 銀

17.1.1 性質

- 展性・延性が860 、電気・熱伝導性が861
- イオン化傾向が水素より862

863 力のある酸 (864 ・865) と反応

• 空気中で酸化しにくいが、866 とは容易に反応

17.1.2 製法

- 銅の電解精錬の867工業的製法
- 銀の化合物の熱分解・光分解 酸化銀の熱分解

ハロゲン化銀 AgX の感光

17.1.3 反応

- 銀と希硝酸
- 銀と濃硝酸

^{*6} フェーリング液・ベネディクト液

16.2 硫酸銅 (II) 5 水和物 16 銅

- 他の金属とさまざまな色の801合金
- 展性・延性が802大きく、電気・熱伝導性が803高い
- イオン化傾向が水素より804低く、酸化力のある酸と反応
- 空気中で徐々に酸化して、緻密な錆(805)酸に溶解)が生成 806赤色の酸化銅(I) 乾・807青緑色の錆(808)緑青)湿

16.1.2 製法

銅の製錬 粗銅・809電解精錬 純銅 工業的製法

$$\begin{array}{l} 2\,\mathrm{Cu_2S} + 3\,\mathrm{O_2} \longrightarrow 2\,\mathrm{Cu_2O} + 2\,\mathrm{SO_2} \\ \mathrm{Cu_2S} + 2\,\mathrm{Cu_2O} \longrightarrow 6\,\mathrm{Cu} + \mathrm{SO_2} \end{array}$$

16.1.3 反応

• 銅と希硝酸

$$3 \text{ Cu} + 8 \text{ HNO}_3 \longrightarrow 3 \text{ Cu}(\text{NO}_3)_2 + 4 \text{ H}_2\text{O} + 2 \text{ NO} \uparrow$$

• 銅と濃硝酸

$$Cu + 4 HNO_3 \longrightarrow Cu(NO_3)_2 + 2 H_2O + 2 NO_2 \uparrow$$

• 銅と熱濃硫酸

$$Cu + 2 H_2 SO_4 \longrightarrow CuSO_4 + 2 H_2 O + SO_2 \uparrow$$

空気中で1000°C未満で加熱して、820黒色の821酸化銅(Ⅱ)生成

$$2 \text{Cu} + \text{O}_2 \longrightarrow 2 \text{CuO}$$

• さらに 1000°C 以上で加熱して、822赤色の823酸化銅(Ⅰ) 生成

$$4 \text{ CuO} \longrightarrow 2 \text{ Cu}_2\text{O} + \text{O}_2$$

• 銅イオンから水酸化銅(II)の生成

$$Cu_2^+ + 2OH^- \longrightarrow Cu(OH)_2 \downarrow$$

• 水酸化銅(II)とアンモニアの反応

$$Cu(OH)_2 + 4NH_3 \longrightarrow [Cu(NH_3)_4]^{2+} + 2OH^{-}$$

• 水酸化銅(II)の加熱

 $Cu(OH)_2 \longrightarrow CuO + H_2O$

16.2 硫酸銅(Ⅱ)5水和物

16.2.1 性質

824青色の固体(結晶中の825[Cu(H₂O)₄]²⁺の色)

• 温度による物質変化

33/41

Cu²⁺ による832 殺菌作用(農薬)

5.3 二酸化硫黄(亜硫酸ガス) 5 硫黄

化学式: 201) 電子式:

5.3.1 性質

- 202 色、203 臭の204
- 水に205
- 206 性

$$K_1 = 1.4 \times 10^{-2} \text{ mol/L}$$

• 208 剤 (209 作用)

 210
 剤(211)
 などの強い還元剤に対して)

5.3.2 製法

硫黄や硫化物の②12 工業的製法
 ②13 と希硫酸
 ②14 と②15

5.3.3 反応

• 二酸化硫黄の水への溶解

二酸化硫黄と硫化水素

• 硫酸酸性で過マンガン酸カリウムと二酸化硫黄

5.3 二酸化硫黄 (亜硫酸ガス) 5 硫黄

5.3 二酸化硫黄 (亜硫酸ガス)

化学式: 201)SO₂ 電子式: O: S:: O

5.3.1 性質

- 202無色、203刺激臭の204気体
- 水に205溶けやすい
- 206弱酸性

$$207SO_2 + H_2O \rightleftharpoons H^+ + HSO_3^ K_1 = 1.4 \times 10^{-2} \text{ mol/L}$$

• 208 還元剤 (209 漂白作用)

$$SO_2 + 2H_2O \longrightarrow SO_4^{2-} + 4H^+ + 2e^-$$

②10酸化剤(②11)H₂Sなどの強い還元剤に対して)

$$SO_2 + 4H^+ + 4e^- \longrightarrow S + 2H_2O$$

5.3.2 製法

硫黄や硫化物の212燃焼 工業的製法

$$2H_2S + 3O_2 \longrightarrow 2SO_2 + 2H_2O$$

• 213 亜硫酸ナトリウムと希硫酸

$$Na_2SO_3 + H_2SO_4 \longrightarrow Na_2SO_4 + SO_2 \uparrow + H_2O$$

• 214銅と215熱濃硫酸

$$Cu + 2H_2SO_4 \longrightarrow CuSO_4 + SO_2 \uparrow + 2H_2O$$

5.3.3 反応

• 二酸化硫黄の水への溶解

$$SO_2 + H_2O \longrightarrow H_2SO_3$$

二酸化硫黄と硫化水素

$$SO_2 + 2H_2S \longrightarrow 3S + 2H_2O$$

• 硫酸酸性で過マンガン酸カリウムと二酸化硫黄

$$2 \text{ KMnO}_4 + 5 \text{ SO}_2 + 2 \text{ H}_2 \text{O} \longrightarrow 2 \text{ MnSO}_4 + 2 \text{ H}_2 \text{SO}_4 + \text{K}_2 \text{SO}_4$$

他の金属とさまざまな色の801

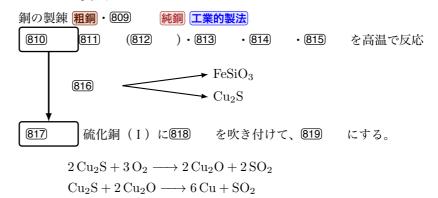
16.2 硫酸銅 (II) 5水和物

• 展性・延性が802 く、電気・熱伝導性が803 い

• イオン化傾向が水素より804 く、酸化力のある酸と反応

空気中で徐々に酸化して、緻密な錆(805) に溶解)が生成
 806 色の酸化銅(I) 乾・807 色の錆(808)) 湿

16.1.2 製法



16.1.3 反応

• 銅と希硝酸

銅と濃硝酸

• 銅と熱濃硫酸

空気中で1000°C未満で加熱して、820 色の821 生成

 • さらに 1000°C 以上で加熱して、822
 色の823
 生成

• 銅イオンから水酸化銅(II)の生成

水酸化銅(Ⅱ)とアンモニアの反応

• 水酸化銅(II)の加熱

16.2 硫酸銅(Ⅱ)5水和物

16.2.1 性質

824 色の固体(結晶中の825 の色)

• 温度による物質変化

$$5$$
 水和物 $\xrightarrow{102^{\circ}\text{C}}$ 826 $\xrightarrow{113^{\circ}\text{C}}$ 827 $\xrightarrow{150^{\circ}\text{C}}$ 828 $\xrightarrow{650^{\circ}\text{C}}$ 829 830 色 \leftarrow $\xrightarrow{\text{H}_2\text{O}}$ (検出)

• Cu²⁺ による**832** 作用(農薬)

16 銅

15.3 塩化鉄(Ⅲ)6水和物

化学式: 767FeCl₃·6H₂O

15.3.1 性質

- 768 黄褐色で769 潮解性のある固体
- 770酸性

```
771 \text{Fe}^{3+} + \text{H}_2\text{O} \Longrightarrow \text{Fe}(\text{OH})^{2+} + \text{H}^+ \quad K_1 = 6.0 \times 10^{-3} \text{ mol/L}
```

15.3.2 製法

鉄に希塩酸を加えてから、塩素を通じる。

Fe + 2 HCl \longrightarrow FeCl₂ + H₂ \uparrow $2 \operatorname{FeCl}_2 + \operatorname{Cl}_2 \longrightarrow 2 \operatorname{FeCl}_3$

15.4 鉄イオンの反応

	NaOH	$K_4[Fe(CN)_6]$	$K_3[Fe(CN)_6]$	H_2S (酸性)	KSCN	
Fe^{2+}	772Fe(OH) ₂ ↓	$\text{Fe}_2[\text{Fe}(\text{CN})_6]\downarrow$	$KFe[Fe(CN)_6]\downarrow$	773変化なし	774変化なし	
775淡緑色	776緑白色	777青白色	778濃青色	779淡緑色	780淡緑色	
Fe ³⁺	781Fe(OH) ₃ ↓	$KFe[Fe(CN)_6]\downarrow$	$Fe[Fe(CN)_6]aq$	782Fe ²⁺ aq	$[Fe(NCS)]^{2+}$	
783黄褐色	784 <mark>赤褐</mark> 色	785濃青色	786 <mark>暗褐</mark> 色	787淡緑色	788 <mark>血赤</mark> 色	

- Fe²⁺, Fe³⁺ は、789OH⁻ とも790NH₃ とも錯イオンを形成しない
- ベルリンブルーとターンブルブルーは(791)同一物質

15.5 塩化コバルト(Ⅱ)

化学式: 792CoCl₂

15.5.1 性質

- 793青色で794潮解性のある固体
- 6水和物は795淡赤色
- 塩化コバルト紙を用いた 796 水の検出
- CO³⁺ は797NH₃ と錯イオンを形成

15.6 硫酸ニッケル(Ⅱ)

化学式: (798)NiSO₄

- 黄緑色で潮解性のある固体
- 6 水和物は青緑色
- Ni²⁺ は799NH₃ と錯イオンを形成

16 銅

16.1 銅

16.1.1 性質

800赤色の金属光沢

5.4 硫酸

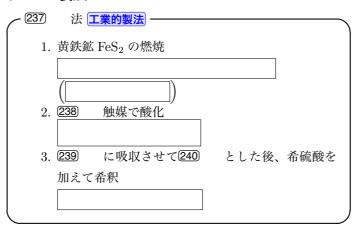
5.4.1 性質

- 216 色217 臭の218
- ・水に219
- 溶解熱が220
- (221) を加えて希釈
- 性で密度が223 ⟨ 、224 が大きい 濃硫酸
- 性・226 作用 濃硫酸
- 227 希硫酸

228 $K_1 > 10^8 \text{mol/L}$

- 濃硫酸 (230 、₂₃₁ の濃度が小さい)
- 剤として働く 熱濃硫酸
- (234)(235)) (236) と難容性の塩を生 • 233 成 希硫酸

5.4.2 製法

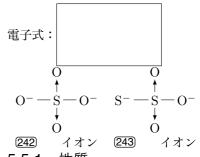


5.4.3 反応

- 硝酸カリウムに濃硫酸を加えて加熱
- スクロースと濃硫酸
- 水酸化ナトリウムと希硫酸
- 銅と熱濃硫酸
- 銀と熱濃硫酸
- 塩化バリウム水溶液と希硫酸

5.5 チオ硫酸ナトリウム (ハイポ)

化学式: 241

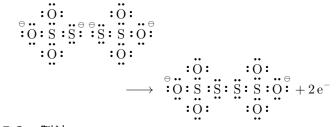


5.5.1 性質

- 無色透明の結晶(5水和物)で、水に溶けやすい。
- 244 剤として反応

例水道水の脱塩素剤 (カルキ抜き)

245



5.5.2 製法

亜硫酸ナトリウム水溶液に硫黄を加えて加熱

5.5.3 反応

ヨウ素とチオ硫酸ナトリウム

無機化学 32/41 解答編 無機化学 空欄編 11/41

5.4 硫酸

5.4.1 性質

- ②16無色②17無臭の②18液体
- 水に219非常によく溶ける
- 溶解熱が220非常に大きい
- ②21)水に濃硫酸を加えて希釈
- 222<u>不揮発性で密度が223大きく、224</u>粘度が大きい 濃硫酸
- 225 吸湿性 · 226 脱水作用 濃硫酸
- 227 強酸性 希硫酸

 $228 H_2 SO_4 \implies H^+ + HSO_4^- \quad K_1 > 10^8 mol/L$

- 229弱酸性 濃硫酸 (230水が少なく、231)H₃O⁺ の濃度が 小さい)
- ②32酸化剤として働く 熱濃硫酸

$$H_2SO_4 + 2H^+ + 2e^- \longrightarrow SO_2 + 2H_2O$$

• 233アルカリ性土類金属 (234Ca,235Be)、236Pb と難 容性の塩を生成希硫酸

5.4.2 製法

237接触法 工業的製法

1. 黄鉄鉱 FeS₂ の燃焼

$$4 \operatorname{FeS}_2 + 11 \operatorname{O}_2 \longrightarrow 2 \operatorname{Fe}_2 \operatorname{O}_3 + 8 \operatorname{SO}_2$$

 $(S + \operatorname{O}_2 \longrightarrow \operatorname{SO}_2)$

- 2. 238酸化バナジウム触媒で酸化
 - $2SO_2 + O_2 \xrightarrow{V_2O_5} 2SO_3$
- 3. 239濃硫酸に吸収させて240発煙硫酸とした後、希 硫酸を加えて希釈

$$SO_3 + H_2O \longrightarrow H_2SO_4$$

5.4.3 反応

- 硝酸カリウムに濃硫酸を加えて加熱
- $KNO_3 + H_2SO_4 \longrightarrow HNO_3 + KHSO_4$
- スクロースと濃硫酸

$$C_{12}H_{22}O_{11} \xrightarrow{H_2SO_4} 12C + 11H_2O$$

• 水酸化ナトリウムと希硫酸

 $H_2SO_4 + 2 NaOH \longrightarrow Na_2SO_4 + 2 H_2O$

• 銅と熱濃硫酸

$$Cu + 2H_2SO_4 \longrightarrow CuSO_4 + SO_2 \uparrow + 2H_2O$$

• 銀と熱濃硫酸

$$2 \text{ Ag} + 2 \text{ H}_2 \text{SO}_4 \longrightarrow \text{Ag}_2 \text{SO}_4 + \text{SO}_2 + 2 \text{ H}_2 \text{O}$$

• 塩化バリウム水溶液と希硫酸

$$BaCl_2 + H_2SO_4 \longrightarrow BaSO_4 \downarrow + 2HCl$$

5.5 チオ硫酸ナトリウム (ハイポ)

化学式: 241 Na₂S₂O₃

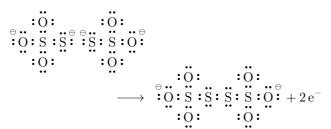


5.5.1 性質

- 無色透明の結晶(5水和物)で、水に溶けやすい。
- ②44)還元剤として反応

例水道水の脱塩素剤 (カルキ抜き)

$$2452 S_2 O_3^{2-} \longrightarrow S_4 O_6 + 2 e^{-}$$



5.5.2 製法

亜硫酸ナトリウム水溶液に硫黄を加えて加熱

 $n Na_2SO_3 + S_n \longrightarrow n Na_2S_2O_3$

5.5.3 反応

ヨウ素とチオ硫酸ナトリウム

 $I_2 + 2 Na_2 S_2 O_3 \longrightarrow 2 Nal + Na_2 S_4 O_6$

15.3 塩化鉄(Ⅲ)6水和物

15.3 塩化鉄 (Ⅲ) 6 水和物

化学式: 767

5 硫黄

15.3.1 性質

(768) 色で769 性のある固体

• (770)

$$(771)$$
 $K_1 = 6.0 \times 10^{-3} \text{ mol/L}$

15.3.2 製法

鉄に希塩酸を加えてから、塩素を通じる。



15.4 鉄イオンの反応

		NaO	Н	$K_4[Fe(0)]$	$(CN)_6$	$K_3[Fe(CN)_6]$		H ₂ S(酸性)		KSC	CN
Fe	2+	772		Fe ₂ [Fe(C	$^{\mathrm{CN}})_{6}]\downarrow$	KFe[Fe(C	CN) ₆]↓	773		774	
775	色	776	色	777	色	(778)	色	779	色	(780)	色
Fe	3+	781		KFe[Fe(C	CN) ₆]↓	Fe[Fe(C	$N)_6$ aq	782		[Fe(NC	$[S]^{2+}$
783	色	784	色	785	色	786	色	787	色	788	色

32/41

- Fe²⁺, Fe³⁺ は、789 とも790 とも錯イオンを形成しない
- ベルリンブルーとターンブルブルーは791

15.5 塩化コバルト(Ⅱ)

化学式: 792

15.5.1 性質

- 793 色で794 性のある固体
- 6 水和物は795 色
- 塩化コバルト紙を用いた796 の検出
- CO³⁺ は797 と錯イオンを形成

15.6 硫酸ニッケル(Ⅱ)

化学式: 798

- 黄緑色で潮解性のある固体
- 6水和物は青緑色
- Ni²⁺ は799 と錯イオンを形成

16 銅

16.1 銅

16.1.1 性質

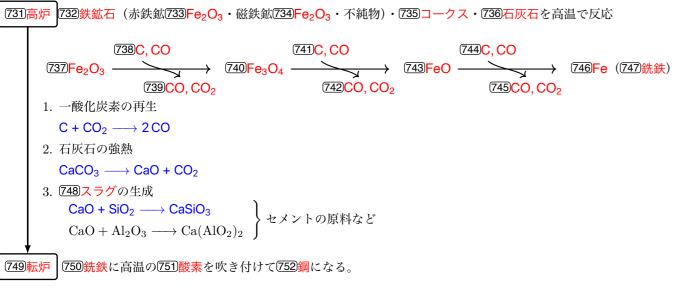
800 色の金属光沢

解答編

16 銅

15.1.2 製法

鉄の製錬 工業的製法



15.1.3 反応

• 塩酸との反応

Fe + 2 HCl
$$\longrightarrow$$
 FeCl₂ + H₂ \uparrow

• 高温の水蒸気との反応

$$3 \text{ Fe} + 4 \text{ H}_2 \text{O} \longrightarrow \text{Fe}_3 \text{O}_4 + 4 \text{ H}_2 \uparrow$$

• 微量に含まれる炭素・鉄・水による[753]局部電池([754]食塩などが溶けていたら反応速度上昇) 正極 (755C) $O_2 + 2H_2O + 4e^- \longrightarrow 4OH^-$

負極 (756Fe) Fe → Fe²⁺ + 2e⁻

• 757水酸化鉄(II)の生成

760水酸化鉄(Ⅲ)の脱水

$$Fe^{2+} + 2OH^{-} \longrightarrow Fe(OH)_{2}$$
 (758緑色)

・速やかに759水酸化鉄(Ⅱ)が酸素により酸化

 $4 \text{ Fe}(OH)_2 + O_2 + 2 H_2 O \longrightarrow 4 \text{ Fe}(OH)_3$

 $Fe(OH)_3 \longrightarrow FeO(OH) + H_2O$ (酸化水酸化鉄(III)濃橙色)

 $2 \operatorname{Fe}(OH)_3 \longrightarrow \operatorname{Fe}_2O_3 \cdot n \operatorname{H}_2O + (3-n)\operatorname{H}_2O$ (761赤褐色)

(エバンスの実験)

15.2 硫酸鉄(Ⅱ)7水和物

化学式: 762FeSO₄·7H₂O

15.2.1 性質

763青緑色の固体

Fe²⁺ 半反応式

$$Fe^{2+} \longrightarrow Fe^{3+} + e^{-}$$

空気中で表面が764Fe₂(SO₄)₃(765黄褐色)

15.2.2 製法

鉄に766希硫酸を加えて、蒸発濃縮

Fe + $H_2SO_4 \longrightarrow FeSO_4 + H_2 \uparrow$

5.6 重金属の硫化物

			酢	始性でも	沈澱	(全液性)	で沈沢	r.)					中性	・塩基性	で沈	殿(酸性	では	溶解)	
A	g_2S	Hg	S	Cu	S	Pb	S	Sn	S	Cd	S	Nis	S	FeS	3	Zn	S	Mn	nS
246	色	247	色	248	色	249	色	250	色	251)	色	252	色	253	色	254	色	255	色
						(25	56	,	イオン	化傾向	(257)							

塩の溶解度積 (K_{sp}) 259 (258)

6 窒素

6.1 窒素

化学式: N_2

6.1.1 性質

- 260 色261 臭の262
- 空気の 78% を占める
- 水に溶け263 (264 分子)
- 常温で265 (食品などの266
- 高エネルギー状態 (267) ・ 268) では反応

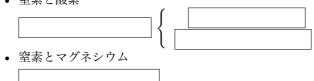
6.1.2 製法

- 269 工業的製法
- (270) Ø(271)

- ,	

6.1.3 反応

• 窒素と酸素



6.2 アンモニア

化学式: 272

6.2.1 件質

- 273 色274 臭の275
- 276 結合
- 水に277 (278) 置換)
- (279) 性 (280) $K_1 = 1.7 \times 10^{-5} \text{ mol/L}$
- 281 の検出
- 高温・高圧で二酸化炭素と反応して、282 を生成

6.2.2 製法

• 283 工業的製法

(284)	温(285)	生で、286	((287))熈架
288	<u>ك (289</u>	を混ぜて加熱		

F- 000

6.2.3 反応

•	航 酸とアンセニア	
		7
	塩素の検出	╛

•	アンモニアと二酸化炭素

6.3 一酸化二窒素(笑気ガス)

化学式: 290

6.3.1 性質

- 無色、少し甘味のある気体
- 水に少し溶ける
- 常温では反応性が低い
- 291 効果

6.3.2 製法

[292] の熱分解

6.4 一酸化窒素

化学式: 293

6.4.1 性質

- 294 色295 臭の296
- 中性で水に溶けにくい
- 空気中では297 とすぐに反応
- 血管拡張作用・神経伝達物質

6.4.2 製法

12/41

(298) \(\gamma \) (299)

無機化学 解答編 31/41 無機化学 空欄編

5.6 重金属の硫化物

酸性でも沈澱(全液性で沈澱)			中性・	塩基性で洗	ご澱(酸性で	ごは溶解)			
Ag_2S	HgS	CuS	PbS	SnS	CdS	NiS	FeS	ZnS	MnS
246黒色	247 黒色	248黑色	249黑色	250褐色	251 黒色	252黒色	253黒色	254 白色	255淡赤色

256低 イオン化傾向

②58極小 塩の溶解度積 (K_{sp}) ②59小

(257) 高

6.2.3 反応

• 硫酸とアンモニア

塩素の検出

化学式: 290N₂O

6.3.1 性質

6.3.2 製法

 $2 NH_3 + H_2SO_4 \longrightarrow (NH_4)_2SO_4$

 $2 NH_3 + CO_2 \longrightarrow (NH_2)_2CO + H_2O$

6.3 一酸化二窒素(笑気ガス)

NH₃ + HCl → NH₄Cl↓

• アンモニアと二酸化炭素

• 無色、少し甘味のある気体

• 常温では反応性が低い

292 硝酸アンモニウムの熱分解

 $NH_4NO_3 \xrightarrow{\Lambda} N_2O + 2H_2O$

6.4 一酸化窒素

• 水に少し溶ける

(291)麻酔効果

 $N_2 + 3 H_2 \Longrightarrow 2 NH_3$

284低温285高圧で、286四酸化三鉄(287Fe₃O₄)触媒

• 288塩化アンモニウムと289水酸化カルシウムを混ぜて

 $2 \text{ NH}_4 \text{Cl} + \text{Ca}(\text{OH})_2 \longrightarrow 2 \text{ NH}_3 \uparrow + \text{CaCl}_2 + 2 \text{ H}_2 \text{O}$

6 窒素

6.1 窒素

化学式: N_2

6.1.1 性質

- 260無色261無臭の262気体
- 空気の 78% を占める
- 水に溶け263にくい(264無極性分子)
- 常温で265不活性(食品などの266酸化防止)
- 高エネルギー状態 (267)高温・268放電) では反応

6.1.2 製法

- 269液体窒素の分留 **工業的製法**
- ②70亜硝酸アンモニウムの②71熱分解 NH₄NO₂ → N₂ + 2 H₂O

6.1.3 反応

• 窒素と酸素

$$N_2 + 2O_2 \longrightarrow 2NO_2 \begin{cases} N_2 + O_2 \longrightarrow 2NO_2 \\ 2NO + O_2 \longrightarrow 2NO_2 \end{cases}$$

• 窒素とマグネシウム $3\,Mg + N_2 \longrightarrow Mg_3N_2$

6.2 アンモニア

化学式: 272NH₃

6.2.1 性質

- 273無色274刺激臭の275気体
- 276水素結合
- 水に277非常によく溶ける(278上方置換)
- 279塩基性

$$\begin{pmatrix} 280\text{NH}_3 + \text{H}_2\text{O} \Longrightarrow \text{NH}_4^+ + \text{OH}^- \\ K_1 = 1.7 \times 10^{-5} \text{ mol/L} \end{pmatrix}$$

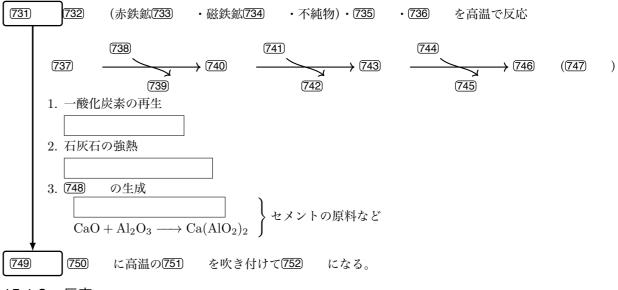
- 281塩素の検出
- 高温・高圧で二酸化炭素と反応して、282尿素を生成

6.2.2 製法

283ハーバーボッシュ法 工業的製法

15.1.2 製法

鉄の製錬工業的製法



15.1.3 反応

 塩酸との反応
 高温の水蒸気との反応
 微量に含まれる炭素・鉄・水による(753) (754) などが溶けていたら反応速度上昇) 正極((755))

(757) の生成 (758) 色)

速やかに(759) が酸素により酸化

760 の脱水
 Fe(OH)₃ → FeO(OH) + H₂O (酸化水酸化鉄 (Ⅲ) 濃橙色)
 2 Fe(OH)₃ → Fe₂O₃ · n H₂O + (3-n)H₂O (761 色)
 (エバンスの実験)

15.2 硫酸鉄(Ⅱ)7水和物

負極 (756)

化学式: 762

15.2.1 性質

「763 色の固体
 Fe²⁺ 半反応式
 空気中で表面が764 (765 色)

15.2.2 製法

鉄に(766) を加えて、蒸発濃縮

化学式: 293NO

6.4.1 性質

- 294無色295無臭の296気体
- 中性で水に溶けにくい
- 空気中では297<mark>酸素</mark>とすぐに反応

 $3 \text{ Cu} + 8 \text{ HNO}_3 \longrightarrow 3 \text{ Cu}(\text{NO}_3)_2 + 2 \text{ NO} + 4 \text{ H}_2 \text{O}$

• 血管拡張作用·神経伝達物質

6.4.2 製法

298銅と299希硝酸

第Ⅲ部

遷移金属

d 軌道・f 軌道(内殻)の秋に電子が入っていき、最外殻電子の数は7001か2

(701)ランタノイド・702アクチノイド:f 軌道に入っていく過程)

同族元素だけでなく、同周期元素も性質が似ている。

- 単体は密度が703大きく、融点が704高い金属
- d 軌道の一部の電子も価電子
- 化合物やイオンは705白色のものが多い
- 安定な(706)錯イオンを形成しやすい (707)d 軌道に空きがある)
- 単体や化合物は708触媒になるものが多い*5

15 鉄・コバルト・ニッケル

15.1 鉄

15.1.1 性質

- 常温で711強磁性
- イオン化傾向が水素より712大きい

(713)強酸と反応((714)濃硝酸には(715)不動態となり反応しない)

- 716高温の水蒸気と反応して717緻密な718黒錆が生成(酸化被膜)
- 湿った空気中では719 粗い720 赤錆を生成

酸化鉄(Ⅲ)	Fe_2O_3	(721) <mark>赤褐</mark> 色	(722)常磁性
四酸化三鉄	Fe ₃ O ₄	723 黒色	724強磁性
酸化鉄(II)	FeO	(725)黒色	726発火性

軟鋼	(727) <mark>鉄鋼</mark>	728	729ステンレス鋼	KS 磁石鋼
C0.2% 未満	C2% 未満	C2% 以上	730Cr, Ni	Co, W, Cr
加工しやすい	硬くて弾性あり	硬くてもろい	錆びにくい	_
鉄筋・鉄骨	レール・バネ	鋳物	キッチン	人工永久磁石

*5 **例**VsO $_5$, MnO $_2$, Fe $_3$ O $_4$, Pt

6.4.3 反応

酸素と反応

6.5 二酸化窒素

化学式:300

6.5.1 性質

- 301 色302 臭の303
- 水と反応して304 性(305 の原因)
- 常温では306 (307 色) と308
- 140°C 以上で熱分解

6.5.2 製法

309 と310

6.6 硝酸

化学式:311

6.6.1 性質

- 312 色313 臭で314 性の315
- ・ 水に316
- 317 性

318 $K_1 = 6.3 \times 10^1 \text{mol/L}$

- ③19 に保存(③20)
- 321 剤としての反応 希硝酸

322 剤としての反応 濃硝酸

- イオン化傾向が小さい Cu、Hg、Ag も溶解
- 323 ,324 ,325 ,326 ,327 /\$328 /\$ 生じて不溶濃硝酸

=(329)

- 330 (331) :1332 =3:1) は、Pt,Au も溶解
- NO₃ は333 ⇒ 334 で検出

6.6.2 製法

• 335 1. 336 触媒で337 を338

2. 339

3. (340) と反応 341 に342 を加えて加熱

6.6.3 反応

- アンモニアと硝酸
- 硝酸の光分解
- 亜鉛と希硝酸
- 銀と濃硝酸

6.5 二酸化窒素 6 窒素 15 鉄・コバルト・ニッケル

6.4.3 反応

酸素と反応

 $2 \text{ NO} + \text{O}_2 \longrightarrow 2 \text{ NO}_2$

6.5 二酸化窒素

化学式: 300NO₂

6.5.1 件質

- 301 赤褐色 302 刺激臭の 303 気体
- 水と反応して304強酸性(305酸性雨の原因)
- ・ 常温では306四酸化二窒素(307無色)と308平衡状態
- 2 NO₂ ⇒ N₂O₄
 140°C 以上で熱分解
- $2 NO_2 \longrightarrow 2 NO + O_2$

6.5.2 製法

309銅と310濃硝酸

 $Cu + 4 HNO_3 \longrightarrow Cu(NO_3)_2 + 2 NO_2 + 2 H_2O$

6.6 硝酸

化学式: 311HNO₃

6.6.1 性質

- 312無色313刺激臭で314揮発性の315液体
- 水に316よく溶ける
- 317強酸性

 $(318 \text{HNO}_3 \rightleftharpoons \text{H}^+ + \text{NO}_3^- \quad K_1 = 6.3 \times 10^1 \text{mol/L})$

- 319褐色瓶に保存(320光分解)
- <u>321</u>酸化剤としての反応 **希硝酸**

$$HNO_3 + H^+ + e^- \longrightarrow NO_2 + H_2O$$

• **322**酸化剤としての反応 **濃硝酸**

$$HNO_3 + 3H^+ + 3e^- \longrightarrow NO + 2H_2O$$

- イオン化傾向が小さい Cu、Hg、Ag も溶解
- 323AI,324Cr,325Fe,326Co,327Ni は328酸化皮膜が生じて不溶 濃硝酸
- =329不動態
- 330王水 (331)濃塩酸:1332)濃硝酸=3:1) は、Pt,Au も 溶解
- NO₃ は333沈殿を作らない ⇒ 334褐輪反応で検出

6.6.2 製法

335オストワルト法

$$NH_3 + 2O_2 \longrightarrow HNO_3 + H_2O$$

1. 336白金触媒で337アンモニアを338酸化

```
4 \, \text{NH}_3 + 5 \, \text{O}_2 \longrightarrow 4 \, \text{NO} + 6 \, \text{H}_2 \text{O}
```

2. 339空気酸化

$$2 \text{ NO} + \text{O}_2 \longrightarrow 2 \text{ NO}_2$$

3. 340水と反応

$$3 \text{ NO}_2 + \text{H}_2\text{O} \longrightarrow 2 \text{HNO}_3 + \text{NO}$$

• 341 **硝酸塩**に342 濃硫酸を加えて加熱

$$NaNO_3 + H_2SO_4 \longrightarrow NaHSO_4 + HNO_3 \uparrow$$

6.6.3 反応

• アンモニアと硝酸

$$NH_3 + HNO_3 \longrightarrow NH_4NO_3$$

• 硝酸の光分解

$$4 \text{ HNO}_3 \xrightarrow{\mathcal{H}} 4 \text{ NO}_2 + 2 \text{ H}_2 \text{O} + \text{O}_2$$

• 亜鉛と希硝酸

```
Zn + 2HNO_3 \longrightarrow Zn(NO_3)_2 + H_2 \uparrow
```

• 銀と濃硝酸

$$Ag + 2HNO_3 \longrightarrow AgNO_3 + H_2O + NO_2 \uparrow$$

第Ⅲ部

遷移金属

d 軌道・f 軌道(内殻)の秋に電子が入っていき、最外殻電子の数は7000

(701) · 702 : f 軌道に入っていく過程)

同族元素だけでなく、同周期元素も性質が似ている。

- 単体は密度が703 く、融点が704 金属
- d 軌道の一部の電子も価電子
- 化合物やイオンは705 色のものが多い
- 安定な(706) を形成しやすい((707))
- 単体や化合物は708
 になるものが多い*5
- 酸化数が { 小さい 大きい } 酸化物は { 709 710 } 剤

15 鉄・コバルト・ニッケル

15.1 鉄

15.1.1 性質

- 常温で711 性
- イオン化傾向が水素よりで12い

713 と反応 (714) には(715) となり反応しない)

- 716 と反応して717 な718 が生成(酸化被膜)
- 湿った空気中では719 い720 を生成

酸化鉄 (Ⅲ)	Fe ₂ O ₃	721	色	722	性
四酸化三鉄	Fe ₃ O ₄	723	色	724	性
酸化鉄(II)	FeO	725	色	726	性

			J	
軟鋼	(727)	728	729	KS 磁石鋼
C0.2% 未満	C2% 未満	C2% 以上	730	Co, W, Cr
加工しやすい	硬くて弾性あり	硬くてもろい	錆びにくい	_
鉄筋・鉄骨	レール・バネ	鋳物	キッチン	人工永久磁石

^{*5} **例**VsO₅, MnO₂, Fe₃O₄, Pt

備考 塩化スズ (IV) 水溶液と硫化水素

 $SnCl_4 + 2H_2S \longrightarrow SnS + S + 4HCl$

14.3 酸化鉛(IV)

14.3.1 性質

696還元剤として働く

 $Sn^{2+} \longrightarrow Sn^{4+} + 2e^{-}$

14.3.2 製法

酢酸鉛(II)水溶液にさらし粉を加える

14.3.3 反応

酸化鉛(IV)に濃塩酸を加えて加熱

 $PbO_2 + 4HCI \longrightarrow PbCl_2 + 2H_2O + Cl_2 \uparrow$

14.4 鉛の難溶性化合物

14.4.1 性質

- 加熱すると溶けやすい
- 697酢酸鉛(Ⅱ)紙を用いた698硫化水素の検出(699黒色)

7 リン

7.1 リン

7.1.1 性質

三種類の同343 体がある

名称	344 リン	345 リン	黒リン
化学式	346	347	P_4
融点	44°C	590°C*2	610°C
発火点	35°C	260°C	
光八点	348 に保存	349	-
密度	$1.8\mathrm{g/cm^3}$	$2.16 \mathrm{g/cm^3}$	$2.7\mathrm{g/cm^3}$
毒性	350	351	352
構造	P P	$P \rightarrow P$	略
CS ₂ への溶解	353	354	355

7.1.2 製法

• リン鉱石にケイ砂とコークスを混ぜて強熱し、蒸気を水で冷却 黄リン 工業的製法

空気を遮断して黄リンを 250°C で加熱 赤リン

空気を遮断して黄リンを 200°C、1.2×10⁹Pa で加熱 黒リン

7.2 十酸化四リン

化学式:356

7.2.1 性質

- 白色で昇華性のある固体
- 357 (水との親和性が358)
- 乾燥剤
- 水を加えて加熱すると反応 (359)

7.2.2 製法

360

7.2.3 反応

水を加えて加熱

7.3 リン酸

化学式:361

7.3.1 性質

(362)

363 $K_1 = 7.5 \times 10^{-3} \text{ mol/L}$

7.3.2 反応

- リン酸と水酸化カルシウムの完全中和
- リン酸カルシウムとリン酸が反応して重過リン酸石灰が 生成

• リン酸カルシウムと硫酸が反応して過リン酸石灰が生成

7 リン

7.1 リン

7.1.1 性質

三種類の同343素体がある

二年がいける			
名称	344黄リン	345 赤リン	黒リン
化学式	346P ₄	347 P _x	P ₄
融点	44°C	590°C*2	610°C
発火点	35°C	260°C	
光久点	348 <mark>水中</mark> に保存	349マッチの側薬	-
密度	$1.8\mathrm{g/cm^3}$	$2.16 \mathrm{g/cm^3}$	$2.7 \mathrm{g/cm^3}$
毒性	350猛毒	351微毒	352微毒
構造	PPP	P = P $P = P$ $P = P$	略
CS ₂ への溶解	353溶ける	354)溶けない	355溶けない
	-		

7.1.2 製法

- リン鉱石にケイ砂とコークスを混ぜて強熱し、蒸気を水で冷却 黄リン 工業的製法
 2 Ca₃(PO₄)₂ + 6 SiO₂ + 10 C → 6 CaSiO₃ + 10 CO + P₄
- 空気を遮断して黄リンを 250°C で加熱 赤リン
- 空気を遮断して黄リンを 200°C、1.2×10⁹Pa で加熱 黒リン

7.2 十酸化四リン

化学式: 356P₄O₁₀

7.2.1 性質

- 白色で昇華性のある固体
- 357 潮解性 (水との親和性が358 非常に高い)
- 乾燥剤
- 水を加えて加熱すると反応(359加水分解)

7.2.2 製法

360リンの燃焼

 $P_4 + 5 O_2 \longrightarrow P_4 O_{10}$

7.2.3 反応

水を加えて加熱

 $P_4O_{10} + 6\,H_2O \longrightarrow 4\,H_3PO_4$

7.3 リン酸

化学式: 361H₃PO₄

7.3.1 性質

362中酸性

363 $H_3PO_4 \rightleftharpoons H^+ + H_2PO_4^- \quad K_1 = 7.5 \times 10^{-3} \text{ mol/L}$

7.3.2 反応

 リン酸と水酸化カルシウムの完全中和 2H₃PO₄ + 3 Ca(OH)₂ → Ca₃(PO₄)₂ + 6 H₂O

• リン酸カルシウムとリン酸が反応して重過リン酸石灰が 生成

 $Ca_3(PO_4)_2 + 4H_3PO_4 \longrightarrow 3Ca(H_2PO_4)_2$

 リン酸カルシウムと硫酸が反応して過リン酸石灰が生成 Ca₃(PO₄)₂ + 2H₂SO₄ → Ca(H₂PO₄)₂ + 2CaSO₄

備考 塩化スズ (IV) 水溶液と硫化水素

14.3 酸化鉛(IV)

14.3.1 性質

696 剤として働く

14.3.2 製法

酢酸鉛(Ⅱ)水溶液にさらし粉を加える

14.3.3 反応

酸化鉛(IV)に濃塩酸を加えて加熱

14.4 鉛の難溶性化合物

14.4.1 性質

- 加熱すると溶けやすい
- 697 紙を用いた698 の検出(699 色)

14 スズ・鉛

14.1 単体

14.1.1 性質

化学式	682 <mark>Sn</mark>	683Pb
特徴	灰白色で柔らかい金属	青白色で柔らかい金属
融点	232°C	328°C
密度	7.28	11.4
特性	684 両性	<mark>生</mark> 元素
用途	685ブリキ(鉄にメッキ)	686 <mark>鉛蓄</mark> 電池の687 <mark>負</mark> 極
用逐	688放射 総	象の遮蔽

【合金】

Cu + Sn··· 689青銅

Sn + Pb… 690はんだ

14.1.2 製法

- 錫石 SnO_2 にコークスを混ぜて加熱 工業的製法 スズ
- $SnO_2 + 2C \longrightarrow Sn + 2CO$
- 方鉛鉱 PbS を焙焼してから、コークスを混ぜて加熱 工業的製法 鉛

 $2 PbS + 3 O_2 \longrightarrow 2 PbO + 2 SO_2$

 $PbO + C \longrightarrow Pb + CO$

14.1.3 反応

- 鉛と691希硝酸
- $3 Pb + 8 HNO_3 \longrightarrow 3 Pb(NO_3)_2 + 4 H_2O + 2 NO$
- 鉛と692酢酸
- $2 Pb + 4 CH_3COOH + O_2 \longrightarrow 2 (CH_3COO)_2Pb + 2 H_2O$
- スズと693塩酸
- $Sn + 2HCI \longrightarrow SnCl_2 + H_2 \uparrow$
- 鉛蓄電池における反応

$$Pb + PbO_2 + 2H_2SO_4$$
 並
完電 $2PbSO_4 + 2H_2O$
正極 $PbO_2 + SO_4^{2-} + 4H^+ + 2e^- \longrightarrow PbSO_4 + 2H_2O$
自極 $Pb + SO_4^{2-} \longrightarrow PbSO_4 + 2e^-$

14.2 塩化スズ(Ⅱ)

14.2.1 性質

694還元剤として働く

 $PbO_2 + 4H^+ + 2e^- \longrightarrow Pb^{2+} + 2H_2O$

14.2.2 製法

スズと695塩酸

 $Sn + 2HCI \longrightarrow SnCl_2 + H_2 \uparrow$

14.2.3 反応

塩化鉄(Ⅲ) 水溶液と塩化スズ(Ⅱ) 水溶液

 $2 \operatorname{FeCl}_3 + \operatorname{SnCl}_2 \longrightarrow 2 \operatorname{FeCl}_2 + \operatorname{SnCl}_4$

8 炭素

8.1 炭素

8.1.1 性質

炭素の同364 体

- (365)
- 366 (367)
- 無定形炭素

用途 顔料・脱臭剤 (活性炭)

黒色で、黒鉛の美結晶が不規則に集合。電気伝導性を示す。

• (368)

用途 医療・材料分野での応用

黒褐色で、60個の炭素原子がサッカーボール状につながった分子結晶。電気伝導性を示さない。

グラフェン

用途 半導体材料への応用

黒鉛の平面性六角形状の層のうち一層だけを取り出したもの。電気伝導性を示す。

カーボンナノチューブ

用途 水素吸蔵・電池電極への応用

グラフェンを円筒状に巻いたもの。電気伝導性を示す。

名称	369	370		
特徴	(371) 色(372) で屈折率が大きい固体	373 色で374 がある固体		
密度	$3.5\mathrm{g/cm^3}$	$2.3\mathrm{g/cm^3}$		
構造	375 方向の376 結晶	377 構造 (378)		
硬さ	379	380		
沸点	(381)	382		
電気伝導性	383	384		
用途	宝石・カッターの刃・研磨剤	鉛筆・電極		

8.2 一酸化炭素

化学式: 385

C,O電子の持つ391 による効果C≡O間の392 の差による効果COの極性は393

8.2.1 性質

- 394 色395 臭で396 な気体
- 赤血球のヘモグロビンの397 に対して強い398
- 399 性で水に溶け400 。(401) 置換)
- 402 性、高温で403 性(404 との親和性が非常に高い)

8.2.2 製法

無機化学

• 405 に406 を吹き付ける **工業的製法**

8 炭素

8.1 炭素

8.1.1 性質

炭素の同364素体

- 365ダイアモンド
- 366黒鉛 (367グラファイト)
- 無定形炭素

用途 顔料・脱臭剤(活性炭)

黒色で、黒鉛の美結晶が不規則に集合。電気伝導性を示す。

368フラーレン

用途 医療・材料分野での応用

黒褐色で、60個の炭素原子がサッカーボール状につながった分子結晶。電気伝導性を示さない。

グラフェン

用途 半導体材料への応用

黒鉛の平面性六角形状の層のうち一層だけを取り出したもの。電気伝導性を示す。

カーボンナノチューブ

用途 水素吸蔵・電池電極への応用

グラフェンを円筒状に巻いたもの。電気伝導性を示す。

名称	369ダイアモンド	③70 黒鉛
特徴	(371)無色(372) <mark>透明</mark> で屈折率が大きい固体	373黒色で374光沢がある固体
密度	$3.5 \mathrm{g/cm^3}$	$2.3\mathrm{g/cm^3}$
構造	375正四面体方向の376共有結合結晶	(377)ズレた層状構造 (378)ファンデルワールス力)
硬さ	379非常に硬い	380軟らかい
沸点	381高い	382高い
電気伝導性	383なし	<u>384</u> あり
用途	宝石・カッターの刃・研磨剤	鉛筆・電極

8.2 一酸化炭素

化学式: 385CO

電子式 : C:: O = : N !! N:
原子間距離 0.113nm 0.110nm

C, O 電子の持つ391電荷による効果

⟩CO の極性は393小さい

C≡O 間の<mark>392電気陰性度</mark>の差による効果

8.2.1 性質

- 394無色395無臭で396有毒な気体
- 赤血球のヘモグロビンの③97Fe²⁺ に対して強い⑤98酸化結合
- 399中性で水に溶け400にくい。(401水上置換)
- 402可燃性、高温で403還元性(404)鉄との親和性が非常に高い)

8.2.2 製法

• $\overline{405}$ 赤熱したコークスに $\overline{406}$ 水蒸気を吹き付ける 工業的製法 $C+H_2O\longrightarrow CO+H_2$

14 スズ・鉛

14.1 単体

14.1.1 性質

17.1.1		
化学式	682	683
特徴	灰白色で柔らかい金属	青白色で柔らかい金属
融点	232°C	328°C
密度	7.28	11.4
特性	(684)	元素
用途	(鉄にメッキ)	686 電池の687 極
用处	688	の遮蔽

【合金】

 $Cu + Sn \cdots 689$

 $\operatorname{Sn} + \operatorname{Pb} \cdots \overline{690}$

14.1.2 製法

錫石 SnO₂ にコークスを混ぜて加熱 工業的製法 スズ

方鉛鉱 PbS を焙焼してから、コークスを混ぜて加熱 工業的製法 鉛

14.1.3 反応

• 鉛と691 酸

• 鉛と692 酸

スズと693

• 鉛蓄電池における反応

正極	
 負極	
. 貝慳	

14.2 塩化スズ(Ⅱ)

14.2.1 性質

(694) 剤として働く (1941) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942) | (1942)

14.2.2 製法

スズと695

14.2.3 反応

塩化鉄 (Ⅲ) 水溶液と塩化スズ (Ⅱ) 水溶液

13.2 酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム

化学式: 661 Al₂O₃・662 Al(OH)₃ 酸化アルミニウムの別称: 663 アルミナ

13.2.1 性質

- 664白色で、水に665溶けにくい
- 666 両性酸化物/水酸化物

667酸・(強) 668塩基と反応

Al³⁺ は669OH⁻ と錯イオンを形成し、670NH₃ とは形成しない

13.2.2 製法

- バイヤー法
- アルミニウムイオンを含む水溶液に、少量の671塩基を加える 水酸化アルミニウム $Al_3^+ + 3 OH^- \longrightarrow Al(OH)_3 \downarrow$

13.2.3 反応

• 酸化アルミニウムと塩酸

 $Al_2O_3 + 6HCI \longrightarrow 2AlCl_3 + 3H_2O$

• 酸化アルミニウムと水酸化ナトリウム水溶液

 $Al_2O_3 + 2 NaOH + 3 H_2O \longrightarrow 2 Na[Al(OH)_4]$

• 水酸化アルミニウムと塩酸

 $AI(OH)_3 + 3HCI \longrightarrow AICI_3 + 3H_2O$

 水酸化アルミニウムと水酸化ナトリウム水溶液 AI(OH)₃ + NaOH → Na[AI(OH)₄]

13.3 ミョウバン・焼きミョウバン

化学式: 672AIK(SO₄)₂·12 H₂O·673AIK(SO₄)₂

13.3.1 性質

- 674 白色で、水に675 溶ける固体
- 676酸性

• Al³⁺ は価数が678大きい陽イオン

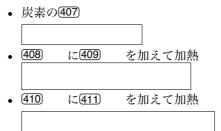
粘土 (679)負の(680)疎水コロイド) で濁った水の浄水処理 (681)凝析)

水への溶解

 $AIK(SO_4)_2 \longrightarrow AI_3^+ + K^+ + SO_4^{2-}$

13.3.2 製法

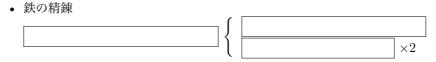
硫酸化アルミニウムと硫酸カリウムの混合水溶液を濃縮



8.2.3 反応

燃焼

$$CO + O_2 \longrightarrow 2CO_2$$



8.3 二酸化炭素

8.3.1 性質

- 412 色413 臭で414 性(固体は415)
- 大気の 0.04% を占める
- 水に416
- 417 性

(418)
$$K_1 = 4.3 \times 10^{-7} \text{ mol/L}$$

8.3.2 製法

- 419 を強熱 工業的製法420 と 421
- 422 の熱分解

8.3.3 反応

二酸化炭素と水酸化ナトリウム423 に通じると424 しさらに通じると425

9 ケイ素

9.1 ケイ素

9.1.1 性質

- 426 色で427 がある428 結晶
- 429

空欄編

$$2C + O_2 \longrightarrow 2CO$$

408ギ酸に409濃硫酸を加えて加熱

$$HCOOH \xrightarrow{H_2SO_4} CO \uparrow + H_2O$$

410シュウ酸に411濃硫酸を加えて加熱

$$(COOH)_2 \longrightarrow CO + CO_2 + H_2O$$

8.2.3 反応

燃焼

$$CO + O_2 \longrightarrow 2CO_2$$

鉄の精錬

$$\text{Fe}_2 \text{O}_3 + 3 \, \text{CO} \longrightarrow 2 \, \text{Fe} + 3 \, \text{CO}_2 \, \left\{ \begin{array}{l} \text{Fe}_2 \text{O}_3 + \text{CO} \longrightarrow 2 \, \text{FeO} + \text{CO}_2 \\ \text{FeO} + \text{CO} \longrightarrow \text{Fe} + \text{CO}_2 \times 2 \end{array} \right.$$

8.3 二酸化炭素

8.3.1 性質

- 412無色413無臭で414<mark>昇華性</mark>(固体は415ドライアイス)
- 大気の 0.04% を占める
- 水に(416)少し溶ける
- 417弱酸性

8.3.2 製法

• 419炭酸カルシウムを強熱 **工業的製法**

```
CaCO_2 \longrightarrow CaO + CO_2
```

• 420希塩酸と421石灰石

$$CaCO_3 + 2HCI \longrightarrow CaCl_2 + H_2O + CO_2$$

• 422炭酸水素ナトリウムの熱分解

$$2 \text{ NaHCO}_3 \longrightarrow \text{Na}_2 \text{CO}_3 + \text{CO}_2 + \text{H}_2 \text{O}$$

8.3.3 反応

• 二酸化炭素と水酸化ナトリウム

$$CO_2 + 2 NaOH \longrightarrow Na_2CO_3 + H_2O$$

• 423石灰水に通じると424白濁しさらに通じると425白濁が消える

```
Ca(OH)_2 + CO_2 \rightleftharpoons CaCO_3 \downarrow + H_2O

CaCO_3 + CO_2 + H_2O \rightleftharpoons Ca(HCO_3)_2
```

9 ケイ素

9.1 ケイ素

9.1.1 性質

- 426灰色で427光沢がある428共有結合結晶
- 429硬いがもろい
- 430半導体に使用(高純度のケイ素)*3

13.2 酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム

化学式: 661 ・662 酸化アルミニウムの別称: 663

13.2 酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム

13.2.1 性質

- 664 色で、水に665
- 666 酸化物/水酸化物

(667) ・(強) (668) と反応

Al³⁺ は669 と錯イオンを形成し、670 とは形成しない

13.2.2 製法

- バイヤー法
- アルミニウムイオンを含む水溶液に、少量の671 を加える **水酸化アルミニウム**

13.2.3 反応

• 酸化アルミニウムと塩酸

• 酸化アルミニウムと水酸化ナトリウム水溶液

・ 水酸化アルミニウムと塩酸

・ 水酸化アルミニウムと水酸化ナトリウム水溶液

13.3 ミョウバン・焼きミョウバン

化学式: 672 · 673

13.3.1 性質

- 674 色で、水に675 固体
- 676

(677) $K_1 = 1.1 \times 10^{-5} \text{ mol/L}$

Al³⁺ は価数が678 陽イオン

粘土 (679 の680 コロイド) で濁った水の浄水処理 (681)

• 水への溶解

у опи

13.3.2 製法

硫酸化アルミニウムと硫酸カリウムの混合水溶液を濃縮

^{*&}lt;sup>3</sup> 6N··· 太陽電池用、11N··· 集積回路用

• 展性・延性が630大きく、電気・熱伝導率が631高い

- 電気・熱伝導性が高い金属 -

632Ag >633Cu >634Au >635Al

⑥36両性元素(⑥37濃硝酸には⑥38不動態となり反応しない)
 表面の緻密な⑥39酸化被膜が内部を保護(⑥40AI,⑥41℃r,⑥42Fe,⑥43℃o,⑥44Ni*4)
 電気分解(⑥45陽極)で人工的に厚い酸化被膜をつける製品加工(⑥46アルマイト)

- イオン化傾向が647大きく、648還元力が649高い
- 650テルミット反応 (多量の651熱・652)光が発生)

13.1.2 製法

- 653 ボーキサイトから得た654酸化アルミニウム (655 アルミナ) の溶融塩電解 **工業的製法**
- バイヤー法
 - 1. 656ボーキサイトを濃い657水酸化ナトリウム水溶液に溶解 Al₂O₃ + 2 NaOH + 3 H₂O → 2 Na[Al(OH)₄]
 - 2. 溶解しない不純物をろ過して、ろ液を水で希釈して Al(OH)3 の種結晶を入れる $Na[Al(OH)_4] \longrightarrow NaOH + Al(OH)_3 \downarrow$
 - 3. 成長した658AI(OH)₃ を強熱 2 AI(OH)₃ → AI₂O₃ + 3 H₂O
- ホールエール法
 - 1. **659** <mark>氷晶石 Na₃AlF₆ を融解し、酸化アルミニウムを溶解</mark>

13.1.3 反応

*⁴ てつこに

1. アルミニウムの燃焼

$$4 \text{ Al} + 3 \text{ O}_2 \longrightarrow 2 \text{ Al}_2 \text{O}_3$$

2. アルミニウムと高温の水蒸気

 $2 \text{ Al} + 3 \text{ H}_2 \text{O} \longrightarrow \text{Al}_2 \text{O}_3 + 3 \text{ H}_2 \uparrow$

3. テルミット反応

 $Fe_2O_3 + 2AI \longrightarrow AI_2O_3 + 2Fe$

高温にしたり微小の他電子を添加

• (430) に使用 (高純度のケイ素)*3

高温にしたり微小の他電子を添加すると電気伝導性が431 (金属は高温で電気伝導性が432))

9.1.2 製法

433 と434 を混ぜて強熱 工業的製法435 と436 粉末を混ぜて加熱

9.2 二酸化ケイ素

化学式: 437

9.2.1 性質

- 438 色439 の440 結晶
- (441)
- 地球の近く中に多く存在 (ケイ砂、石英、水晶)
- 442 酸化物
- 443 (444) ・吸着剤)の生成に用いられる
 多孔質、適度な数の(445)

9.2.2 反応

446 と反応
 447 と反応
 448 や449 がガラスを侵す反応 (450 の生成)
 451 と452 から453 の白色ゲル状沈澱が生じる反応
 454 を加熱してシリカゲルを得る反応
 (0 < n < 1)

 $^{^{*3}}$ $6N\cdots$ 太陽電池用、 $11N\cdots$ 集積回路用

高温にしたり微小の他電子を添加すると電気伝導性が431上昇(金属は高温で電気伝導性が432降下)

9.1.2 製法

• **433**ケイ砂と**434**一酸化炭素を混ぜて強熱 **工業的製法**

$$SiO_2 + 2C \longrightarrow Si + 2CO$$

• **435**ケイ砂と**436**マグネシウム粉末を混ぜて加熱

$$SiO_2 + 2 Mg \longrightarrow Si + 2 MgO$$

9.2 二酸化ケイ素

化学式: 437 SiO₂

9.2.1 性質

- 438無色439透明の440共有結合結晶
- 441硬い
- 地球の近く中に多く存在 (ケイ砂、石英、水晶)
- 442 酸性酸化物
- 443シリカゲル(444乾燥剤・吸着剤)の生成に用いられる多孔質、適度な数の445ヒドロキシ基

9.2.2 反応

446フッ化水素と反応

$$SiO_2 + 4HF \longrightarrow SiF_4 \uparrow + 2H_2O$$

447フッ化水素酸と反応

$$SiO_2 + 6HF \longrightarrow H_2SiF_6 \uparrow + 2H_2O$$

• 448水酸化ナトリウムや449炭酸ナトリウムがガラスを侵す反応 (450水ガラスの生成)

$$SiO_2 + 2 NaOH \longrightarrow Na_2SiO_3 + H_2O$$

$$SiO_2 + Na_2CO_3 \longrightarrow Na_2SiO_3 + CO_2$$

• 451水ガラスと452塩酸から453ケイ酸の白色ゲル状沈澱が生じる反応

```
NaSiO_3 + 2HCI \longrightarrow H_2SiO_3 \downarrow + 2NaCI
```

• 454ケイ酸を加熱してシリカゲルを得る反応

$$H_2SiO_3 \longrightarrow SiO_2 \cdot n H_2O + (1-n)H_2O (0 < n < 1)$$

展性・延性が630 、電気・熱伝導率が631

13 アルミニウム

636 元素(637) には638 となり反応しない)
 表面の緻密な639 が内部を保護(640 ,641 ,642 ,643 ,644 *4)
 電気分解(645 極)で人工的に厚い酸化被膜をつける製品加工(646)

イオン化傾向が647 、648 力が649

• 650 反応 (多量の651 ・652 が発生)

13.1.2 製法

- 653 から得た654 (655) の溶融塩電解 工業的製法
- バイヤー法

1. 656 を濃い657 水溶液に溶解

2. 溶解しない不純物をろ過して、ろ液を水で希釈して $\mathrm{Al}(\mathrm{OH})$ 3 の種結晶を入れる

3. 成長した658 を強熱

- ホールエール法
 - 1. 659 Na₃AlF₆を融解し、酸化アルミニウムを溶解

13.1.3 反応

1. アルミニウムの燃焼

2. アルミニウムと高温の水蒸気

3. テルミット反応

^{*4} てつこに

12.2 酸化亜鉛(亜鉛華)・水酸化亜鉛 13 アルミニウム 9.2 二酸化ケイ素 9.2 二酸化ケイ素

12.2 酸化亜鉛 (亜鉛華)・水酸化亜鉛

化学式: 614ZnO·615Zn(OH)₂

12.2.1 性質

- 616白色で、水に617とけにくい固体
- 酸化亜鉛は618 顔料
- 619両性酸化物/水酸化物

620酸・(強) 621塩基と反応 Zn^{2+} は、622 OH^- とも623 NH_3 とも錯イオンを形成

12.2.2 製法

• 亜鉛を燃焼 **工業的製法酸化亜鉛**

 $2 Zn + O_2 \longrightarrow 2 ZnO$

亜鉛イオンを含む水溶液に、少量の624OH⁻ を加える 水酸化亜鉛

 $Zn^{2+} + 2OH^{-} \longrightarrow Zn(OH)_{2} \downarrow$

12.2.3 反応

• 酸化亜鉛と塩酸

 $ZnO + 2 HCI \longrightarrow ZnCl_2 + H_2O$

• 酸化亜鉛と水酸化ナトリウム水溶液

 $ZnO + 2 NaOH + H_2O \longrightarrow Na_2[Zn(OH)_4]$

• 水酸化亜鉛と塩酸

 $Zn(OH)_2 + 2HCI \longrightarrow ZnCl_2 + 2H_2O$

• 水酸化亜鉛と水酸化ナトリウム水溶液

 $Zn(OH)_2 + 2 NaOH \longrightarrow Na_2[Zn(OH)_4]$

• 水酸化亜鉛の過剰な625アンモニアとの反応

 $Zn(OH)_2 + 4NH_3 \longrightarrow [Zn(NH_3)_4](OH)_2$

12.3 塩化水銀(Ⅱ)・塩化水銀(Ⅱ)

化学式: 626Hg₂Cl₂·627HgCl

12.3.1 性質

- 白色で、水に溶けにくい固体で、微毒 **塩化水銀 (Ⅰ)**
- 白色で、水に少し溶ける固体で、猛毒 **塩化水銀 (II)**

12.3.2 製法

水酸化銀(II)と水銀の混合物を加熱

 $HgCl_2 + Hg \longrightarrow Hg_2Cl_2$

13 アルミニウム

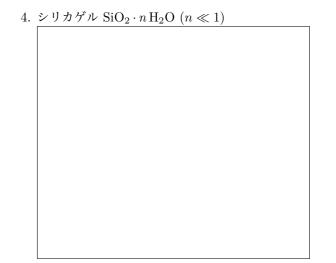
13.1 アルミニウム

13.1.1 性質

• 密度が628小さく、629やわからかい金属

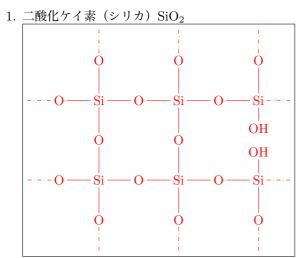
シリカゲル生成過程での構造変化

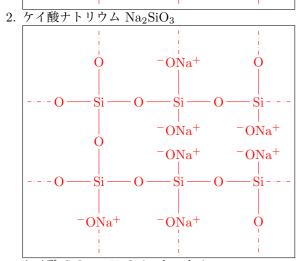
l.	二酸化ケイ素(シリカ)SiO ₂
2.	「ケイ酸ナトリウム Na ₂ SiO ₃
3.	$oxed{ \begin{tabular}{c} \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \$

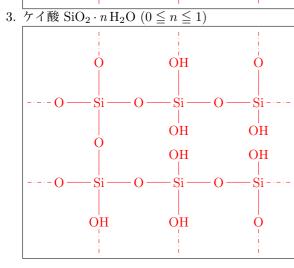


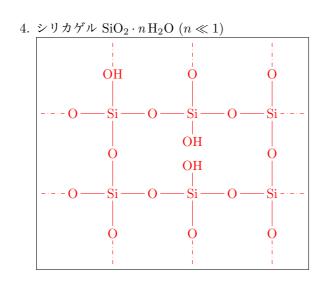
無機化学 無機化学 25/41 解答編 無機化学 無機化学 18/41 空欄編

シリカゲル生成過程での構造変化









12.2 酸化亜鉛(亜鉛華)・水酸化亜鉛

化学式: 614 · 615

12.2.1 性質

9 ケイ素

- 616 色で、水に617 固体
- 酸化亜鉛は618
- 619 酸化物/水酸化物

620 ・(強) 621 と反応 Zn²⁺ は、622 とも623 とも錯イオンを形成

12.2.2 製法

- 亜鉛を燃焼 **工業的製法**酸化亜鉛
- 亜鉛イオンを含む水溶液に、少量の**624** を加える **水酸化亜鉛**

12.2.3 反応

- 酸化亜鉛と塩酸
- 酸化亜鉛と水酸化ナトリウム水溶液
- 水酸化亜鉛と塩酸
- 水酸化亜鉛と水酸化ナトリウム水溶液
- ____
- 水酸化亜鉛の過剰な625との反応

12.3 塩化水銀(Ⅰ)・塩化水銀(Ⅱ)

化学式: 626 · 627

12.3.1 性質

- 白色で、水に溶けにくい固体で、微毒 **塩化水銀(I)**
- 白色で、水に少し溶ける固体で、猛毒 **塩化水銀(Ⅱ)**

12.3.2 製法

水酸化銀(II)と水銀の混合物を加熱

13 アルミニウム

13.1 アルミニウム

13.1.1 性質

• 密度が628 、629 金属

無機化学 無機化学 無機化学 25/41 空欄編

11.6 硫酸カルシウム 12 12 族元素 10 アルカリ金属

11.6 硫酸カルシウム

化学式: 583 CaSO₄

11.6.1 性質

584セッコウを約 150°C で加熱すると、585焼きセッコウが生成

586水を加えると、587発熱・588膨張・589硬化して590セッコウに戻る

 $CaSO_4 \cdot 2 H_2O$ $\stackrel{\Delta}{\stackrel{\longleftarrow}{\overleftarrow{eqt}}} CaSO_4 \cdot \frac{1}{2} H_2O + \frac{3}{2} H_2O$

用途 医療用ギプス・石膏像・建材

11.7 硫酸バリウム

化学式: 591 BaSO₄

11.7.1 性質

- 592白色で、水に593ほとんど溶けない固体
- 反応性が594低く、X線を遮蔽

12 12 族元素

12.1 単体

12.1.1 性質

化学式	595 <mark>Zn</mark>	596Cd	597Hg
融点	420°C	321°C	−39°C
密度	7.1	8.6	13.6
M^{2+} aq + H ₂ S	598 <u>台</u> 色の599ZnS↓	600黄色の601CdS↓	602黒色の603HgS↓
(沈澱条件) (<u>604</u>) 中塩基性)		(605)全液性)	(606全液性)
特性	高温の水蒸気と反応	Cd ²⁺ は Ca ²⁺ と類似	607 <mark>合金</mark> を作りやすい
村庄	608 <mark>両性</mark> 元素	⇒ イタイイタイ病	(609アマルガム)
用途	610トタン(鉄にメッキ)	ニカド電池 (Ni-Cd)	体温計・蛍光灯

- 12 族の硫化物は611) 顔料や612 染料に利用
- HgS は 450°C で消火させると**613**赤色に変化

12.1.2 製法

閃亜鉛鉱を焙焼して得た酸化亜鉛に、コークスを混ぜて加工 **工業的製法**

 $2 \text{ZnS} + 3 \text{O}_2 \longrightarrow 2 \text{ZnO} + 2 \text{SO}_2$

 $ZnO + C \longrightarrow Zn + CO$

12.1.3 反応

• 高温の水蒸気と反応 亜鉛

 $Zn + H_2O \longrightarrow ZnO + H_2 \uparrow$

塩酸と反応 亜鉛

 $Zn + 2HCI \longrightarrow ZnCl_2 + H_2 \uparrow$

• 水酸化ナトリウム水溶液と反応 亜鉛

 $Zn + 2 NaOH + 2 H₂O \longrightarrow Na₂[Zn(OH)₄] + H₂ \uparrow$

第Ⅱ部

典型金属

10 アルカリ金属

10.1 単体

10.1.1 性質

- 銀白色で455 金属
- 全体的に反応性が高く、456 中に保存
- 原子一個あたりの自由電子が457 個(458 い459 結合)
- 還元剤として反応

化学式	Li	Na	K	Rb	Cs			
融点	181°C	98°C	64°C	39°C	28°C			
密度	0.53	0.97	0.86	1.53	1.87			
構造		460 格子(461)						
イオン化エネルギー	大 ==	大						
反応力	小 —	小 大						
炎色反応	462 色	463 色	464 色	465 色	466 色			
用途	リチウムイオン 電池の負極	トンネル照明 高速増殖炉の冷却材	磁気センサー 肥料 (K ⁺)	光電池 年代測定	光電管 電子時計 (一秒の基準)			

10.1.2 製法

水酸化物や塩化物の(467) (468) 法) 工業的製法

469 添加 (470

10.1.3 反応

• ナトリウムと酸素

• ナトリウムと塩素

• ナトリウムと水

7 7 7 7 2 2

10.2 水酸化ナトリウム(苛性ソーダ)

化学式: 471

10.2.1 性質

- 472 色の固体
- 473 性
- 水によくとける(水との親和性が474)
- 475 剤
- 強塩基性

(476) $K_1 = 1.0 \times 10^{-1} \text{mol/L}$

第Ⅱ部

典型金属

10 アルカリ金属

10.1 単体

10.1.1 性質

- 銀白色で455柔らかい金属
- 全体的に反応性が高く、456灯油中に保存
- 原子一個あたりの自由電子が4571個(4583弱い459金属結合)
- 還元剤として反応

 $M \longrightarrow M^+ + e^-$

化学式	Li	Na	К	Rb	Cs		
融点	181°C	98°C	64°C	39°C	28°C		
密度	0.53	0.97	0.86	1.53	1.87		
構造	(460)体心立方格子((461) <mark>軽金属</mark>)						
イオン化エネルギー	大						
反応力	小 —	小 大					
炎色反応	462赤色	463 黄色	464 赤紫色	465 深赤色	466青紫色		
用途	リチウムイオン 電池の負極	トンネル照明 高速増殖炉の冷却材	磁気センサー 肥料 (K ⁺)	光電池 年代測定	光電管 電子時計 (一秒の基準)		

10.1.2 製法

水酸化物や塩化物の(467)容融塩電解 ((468)ダウンズ法) 工業的製法

469CaCl₂添加(470凝固点降下)

 $2 \text{ NaCl} \longrightarrow 2 \text{ Na} + \text{Cl}_2 \uparrow$

10.1.3 反応

• ナトリウムと酸素

 $4 \text{ Na} + \text{O}_2 \longrightarrow 2 \text{ Na}_2 \text{O}$

ナトリウムと塩素

 $2 \text{ Na} + \text{Cl}_2 \longrightarrow 2 \text{ NaCl}$

• ナトリウムと水

 $2 \text{ Na} + 2 \text{ H}_2 \text{O} \longrightarrow 2 \text{ NaOH} + \text{H}_2 \uparrow$

10.2 水酸化ナトリウム(苛性ソーダ)

化学式: 471 NaOH

10.2.1 性質

- 472白色の固体
- 473 潮解性
- 水によくとける (水との親和性が474)非常に高い)
- 475乾燥剤
- 強塩基性

476NaOH \Longrightarrow Na⁺ + OH⁻ $K_1 = 1.0 \times 10^{-1}$ mol/L

11.6 硫酸カルシウム

化学式: 583

11.6.1 性質

584 を約150°Cで加熱すると、585 が生成

<u>586</u> を加えると、<u>587</u> ・<u>588</u> ・<u>589</u> して<u>590</u> に戻る

用途 医療用ギプス・石膏像・建材

11.7 硫酸バリウム

化学式: 591

11.7.1 性質

- 592 色で、水に593 固体
- 反応性が594 く、X線を遮蔽

12 12 族元素

12.1 単体

12.1.1 性質

化学式	595	596	597
融点	融点 420°C 321°C		−39°C
密度	7.1 8.6		13.6
$M^{2+}aq + H_2S$	598 色の599 ↓	600 色の601 ↓	602 色の603 ↓
(沈澱条件)	(604)	(605)	(606)
特性	高温の水蒸気と反応	Cd ²⁺ は Ca ²⁺ と類似	607 を作りやすい
村庄	608 元素	⇒ イタイイタイ病	(609)
用途	610 (鉄にメッキ)	ニカド電池 (Ni-Cd)	体温計・蛍光灯

- 12 族の硫化物は611 や612 に利用
- HgS は 450°C で消火させると613 色に変化

12.1.2 製法

閃亜鉛鉱を焙焼して得た酸化亜鉛に、コークスを混ぜて加工 工業的製法

12.1.3 反応

• 高温の水蒸気と反応 亜鉛

塩酸と反応 亜鉛

• 水酸化ナトリウム水溶液と反応 亜鉛

11.3 水酸化カルシウム (消石灰) 11 2 族元素

11.3 水酸化カルシウム(消石灰)

化学式: 556Ca(OH)2

11.3.1 性質

- (557) 白色
- 水に558少し溶ける固体
- 559強塩基 (560Ca(OH)₂ \iff Ca(OH)⁺ + OH⁻ $K_1 = 5.0 \times 10^{-2}$)
- 水溶液は561石灰水

11.3.2 製法

(562)酸化カルシウムと(563)水 **工業的製法**

 $CaO + H_2O \longrightarrow Ca(OH)_2$

11.3.3 反応

• 塩素と反応して、564さらし粉が生成

 $Ca(OH)_2 + Cl_2 \longrightarrow CaCl(ClO) \cdot H_2O$

• 580°C 以上で565<mark>熱分解</mark>

 $Ca(OH)_2 \longrightarrow CaO + H_2O$

• 二酸化炭素との反応

 $Ca(OH)_2 + CO_2 \longrightarrow CaCO_3 + H_2O$

• 塩化アンモニウムとの反応

 $2 \text{ NH}_4 \text{Cl} + \text{Ca}(\text{OH})_2 \longrightarrow \text{CaCl}_2 + 2 \text{ NH}_3 \uparrow + 2 \text{ H}_2 \text{O}$

11.4 炭酸カルシウム(石灰石)

化学式: 566 CaCO3

11.4.1 性質

- 567白色で、水に568溶けにくい
- 569鍾乳洞の形成

11.4.2 反応

• 800°C 以上で570熱分解

 $CaCO_3 \longrightarrow CaO + CO_2$

• [571]二酸化炭素を多く含む水に[572]<mark>溶解</mark>

 $CaCO_3 + CO_2 + H_2O \Longrightarrow Ca(HCO_3)_2$

11.5 塩化マグネシウム・塩化カルシウム

化学式: 573MgCl₂·574CaCl₂

11.5.1 性質

(575) 期解性があり、水に(576) よく溶ける(水との親和性が(577) 非常に高い)

578乾燥剤 塩化カルシウム、579融雪剤

11.5.2 製法

- 海水から得た580にがりを濃縮 塩化マグネシウム **工業的製法**
- <u>581</u>アンモニアソーダ法 (<u>582</u>ソルベー法) <u>塩化カルシウム</u> <u>工業的製法</u>

空気中の477 と反応して、純度が不明酸の標準溶液(478))を用いた中和滴定で濃度決定

10 アルカリ金属

10.2.2 製法

(479) の(480) (イオン交換膜法) **工業的製法**

10.3 炭酸ナトリウム・炭酸水素ナトリウム

10.2.3 反応

- 塩酸と水酸化ナトリウム
- 塩素と水酸化ナトリウム
- □ 二酸化硫黄と水酸化ナトリウム
- 酸化亜鉛と水酸化ナトリウム水溶液
- 二酸化炭素と水酸化ナトリウム

10.3 炭酸ナトリウム・炭酸水素ナトリウム

10.3.1 性質

名称	炭酸ナトリウム	炭酸水素ナトリウム				
化学式	(481)	482				
色	483 色	484 色				
融点	850°C	485				
液性	486 性	487 性				
用途	488 や石鹸の原料	胃腸薬・ふくらし粉				

無機化学 無機化学 23/41 解答編 無機化学 20/41 20/41

空気中の477二酸化炭素と反応して、純度が不明酸の標準溶液(478シュウ酸)を用いた中和滴定で濃度決定 (COOH)₂ + 2 NaOH → (COONa)₂ + 2 H₂O)

10.2.2 製法

(479)水酸化ナトリウム水溶液の(480)電気分解 (イオン交換膜法) **工業的製法**

 $2 \text{ NaCl} + 2 \text{ H}_2 \text{O} \longrightarrow 2 \text{ NaOH} + \text{H}_2 \uparrow + \text{Cl}_2 \uparrow$

10.2.3 反応

- 塩酸と水酸化ナトリウム
 HCl + NaOH → NaCl + H₂O
- 塩素と水酸化ナトリウム

 $2 \text{ NaOH} + \text{Cl}_2 \longrightarrow \text{NaCI} + \text{NaCIO} + \text{H}_2\text{O}$

• 二酸化硫黄と水酸化ナトリウム

 $SO_2 + 2 NaOH \longrightarrow Na_2SO_3 + H_2O$

• 酸化亜鉛と水酸化ナトリウム水溶液

 $ZnO + 2 NaOH + H_2O \longrightarrow Na_2[Zn(OH)_4]$

• 二酸化炭素と水酸化ナトリウム

 $2 \text{ NaOH} + \text{CO}_2 \longrightarrow \text{Na}_2 \text{CO}_3 + \text{H}_2 \text{O}$

10.3 炭酸ナトリウム・炭酸水素ナトリウム

10.3.1 性質

	117	
名称	炭酸ナトリウム	炭酸水素ナトリウム
化学式	481Na ₂ CO ₃	482NaHCO ₃
色	483 白色	484 <u>台</u> 色
融点	850°C	485熱分解
液性	486 塩基性	(487) <mark>弱塩基</mark> 性
用途	488 ガラスや石鹸の原料	胃腸薬・ふくらし粉

11.3 水酸化カルシウム(消石灰)

化学式: 556

11.3.1 性質

- 557 色
- 水に558 固体
- (559) (560) $K_1 = 5.0 \times 10^{-2}$
- 水溶液は561

11.3.2 製法

| 562 と 563 | **工業的製法**|

11.3.3 反応

- 塩素と反応して、564 が生成
- 580°C以上で565

二酸化炭素との反応

塩化アンモニウムとの反応

塩化プラモーリムとの及心

11.4 炭酸カルシウム(石灰石)

化学式:566

11.4.1 性質

- 567 色で、水に568
- 569 の形成

11.4.2 反応

• 800°C 以上で570

 • 571
 を多く含む水に572

11.5 塩化マグネシウム・塩化カルシウム

化学式: 573 ・574

11.5.1 性質

[575] 性があり、水に[576] (水との親和性が[577])

578 剤 塩化カルシウム、579 剤

11.5.2 製法

- 海水から得た580 を濃縮 塩化マグネシウム 工業的製法
- 581 (582) 塩化カルシウム 工業的製法

解答編

11 2 族元素

516Be,517Mg,518アルカリ土類金属

11.1 単体

11.1.1 性質

化学式	519Be	520Mg	521Ca	522 <mark>S</mark> r	523Ba
融点	1282°C	649°C	839°C	769°C	729°C
密度 (g/cm ³)	1.85	1.74	1.55	2.54	3.59
524還元力	小 -				t
水との反応	525反応しない	526熱水	527冷水	528冷水	529冷水
M(OH) ₂ の水溶性	530難溶性 (5	31) <mark>弱塩基性)</mark>	532可溶性	(533強塩	基性)
難溶性の塩	534 <mark>M</mark> (CO ₃	535M	ICO ₃ , MSO) ₄
炎色反応	536示さない	537示さない	538橙赤	<u>539</u> ¥ <u>T</u>	540黄緑
用途	X 線通過窓	フラッシュ	精錬の還元剤	発煙筒	ゲッター

11.1.2 製法

塩化物の541溶融塩電解 工業的製法

11.1.3 反応

• マグネシウムの燃焼

 $2 \text{ Mg} + \text{O}_2 \longrightarrow 2 \text{ MgO}$

• マグネシウムと二酸化炭素

 $2 \text{Mg} + \text{CO}_2 \longrightarrow 2 \text{MgO} + \text{C}$

カルシウムと水

 $Ca + 2 H_2O \longrightarrow Ca(OH)_2 + H_2 \uparrow$

11.2 酸化カルシウム(生石灰)

化学式: 542 CaO

11.2.1 性質

- 543 台色
- 544水との親和性が545非常に高い(546乾燥剤)
- 547 塩基性酸化物
- 水との反応熱が548非常に大きい(549加熱剤)

11.2.2 製法

(550)炭酸カルシウムの(551)熱分解

 $CaCO_3 \longrightarrow CaO + CO_2$

11.2.3 反応

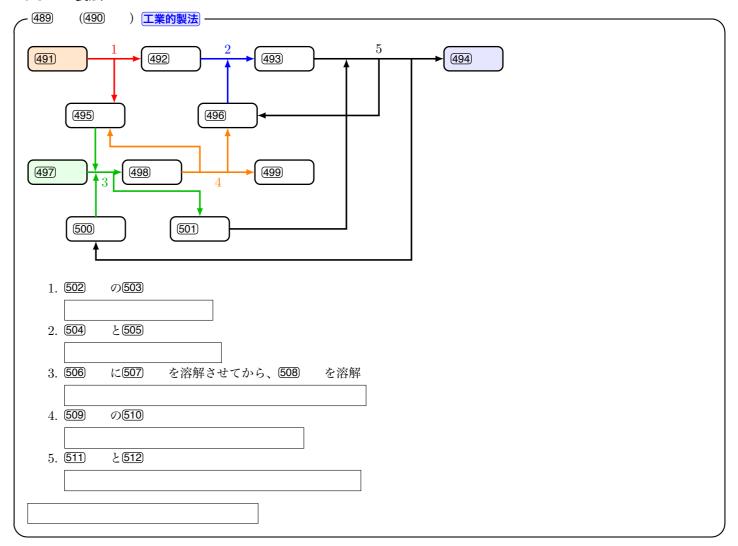
• コークスを混ぜて強熱すると、552炭化カルシウム(553カーバイド)が生成

$$\mathsf{CaO} + \mathsf{3C} \longrightarrow \mathsf{CaC}_2 + \mathsf{CO} \! \uparrow$$

554水と反応して**555アセチレン**が生成

 $CaC_2 + 2H_2O \longrightarrow C_2H_2\uparrow + Ca(OH)_2$

10.3.2 製法



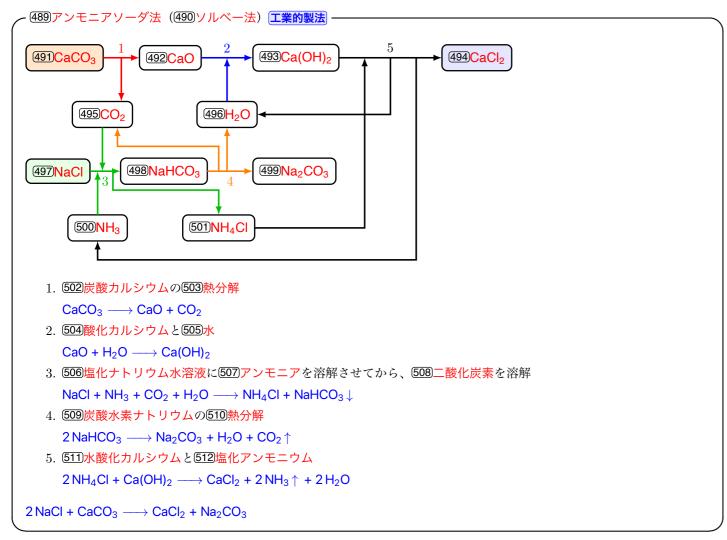
10.3.3 反応

無機化学

• Na₂CO₃ 513
$$K_1 = 1.8 \times 10^{-4}$$

• NaHCO₃
$$\begin{cases} 514 & K_1 = 5.6 \times 10^{-11} \\ 515 & K_2 = 2.3 \times 10^{-8} \end{cases}$$

10.3.2 製法



10.3.3 反応

• Na₂CO₃ 513CO₃²⁻ + H₂O
$$\Longrightarrow$$
 HCO₃⁻ + OH⁻ $K_1 = 1.8 \times 10^{-4}$
• NaHCO₃ $\begin{cases} 514 \text{HCO}_3^- \Longleftrightarrow \text{H}^+ + \text{CO}_3^{2-} & K_1 = 5.6 \times 10^{-11} \\ 515 \text{HCO}_3^- + \text{H}_2\text{O} \Longrightarrow \text{CO}_2 + \text{OH}^- + \text{H}_2\text{O} & K_2 = 2.3 \times 10^{-8} \end{cases}$

11 2 族元素

516 ,517 ,518

11.1 単体

11.1.1 性質

化学式	519	520	521	522	523
融点	1282°C	649°C	839°C	769°C	729°C
密度 (g/cm ³)	1.85	1.74	1.55	2.54	3.59
524 力	小 -				大
水との反応	525	526	527	528	529
M(OH) ₂ の水溶性	530 性	(531) 性)	532	性 (533)	性)
難溶性の塩	534		535		
炎色反応	536	(537)	538	539	540
用途	X 線通過窓	フラッシュ	精錬の還元剤	発煙筒	ゲッター

11.1.2 製法

塩化物の541 工業的製法

11.1.3 反応

• マグネシウムの燃焼

• マグネシウムと二酸化炭素

カルシウムと水

11.2 酸化カルシウム(生石灰)

化学式: 542

11.2.1 性質

- 543 色
- 544 との親和性が545 (546)
- 547 酸化物
- 水との反応熱が548 (549)

11.2.2 製法

(550) Ø(551)

11.2.3 反応

コークスを混ぜて強熱すると、552 (553)が生成554 と反応して(555) が生成